

第6回川崎市地域福祉実態調査（令和4年度調査）

結果概要

中原区版

目次

調査の概要	- 1 -
■ 調査の目的	- 1 -
■ 調査の設計	- 1 -
■ 概要を利用するにあたって	- 1 -
1. 回答者の基本属性	- 3 -
2. 『川崎市地域福祉計画』について	- 9 -
3. 居住地域について	- 10 -
4. 地域活動やボランティア活動について	- 24 -
5. 保健・福祉に関することについて	- 29 -
6. 防災に対する意識と備えについて	- 32 -
7. 今後の地域福祉の推進について	- 37 -
8. 自由回答のまとめ	- 42 -
資料 アンケート調査票	- 62 -

調査の概要

■ 調査の目的

本調査は、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第7期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

■ 調査の設計

【調査対象者】

市内在住の18歳以上の男女（外国人を含む）各区1,000人、全市合計7,000人

【調査時期】

令和4年11月～令和4年12月

【抽出方法】

住民基本台帳から無作為抽出

【調査内容】

- ・基本属性
- ・『川崎市地域福祉計画』について
- ・居住地域について
- ・地域活動やボランティア活動について
- ・保健・福祉に関することについて
- ・防災に対する意識と備えについて
- ・今後の地域福祉の推進について

■ 概要を利用するにあたって

- (1) 図中のnとは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答はnを100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。

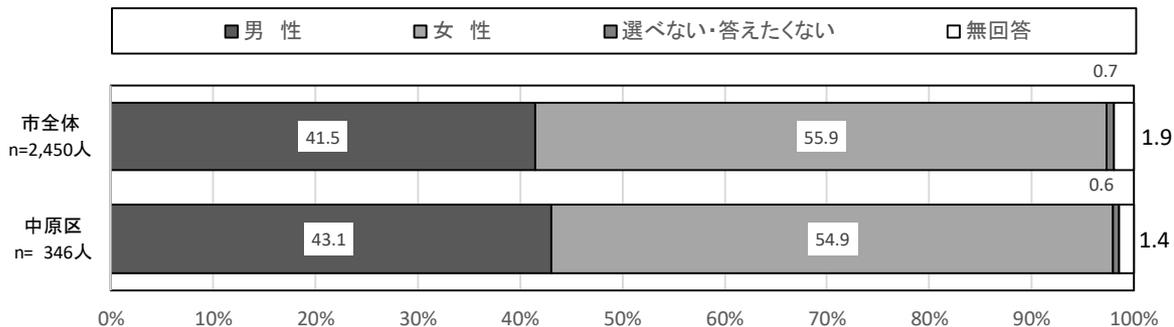
【回収率】

区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数（人）	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	7,000
有効回収数（人）	303	363	346	341	359	332	371	35	2,450
有効回収率	30.3%	36.3%	34.6%	34.1%	35.9%	33.2%	37.1%	-	35.0%
（参考） 第5回回収率	30.9%	33.9%	35.0%	32.6%	35.9%	35.0%	40.9%	-	35.3%

1. 回答者の基本属性

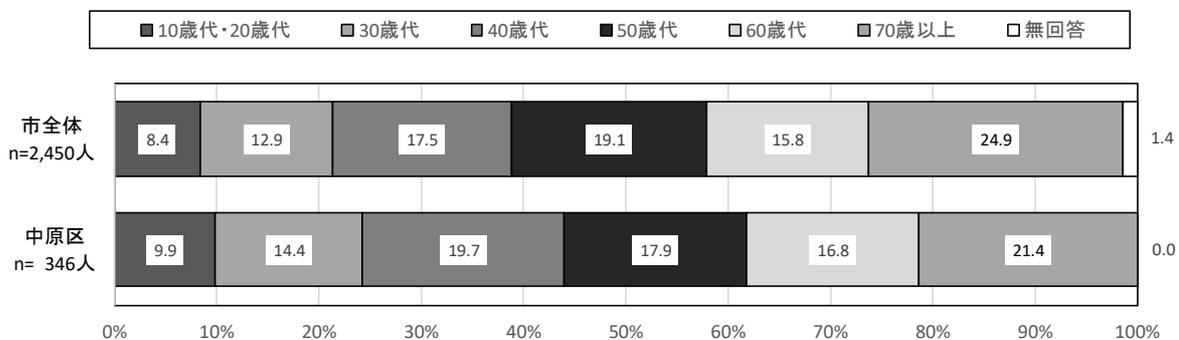
問1 性別を教えてください。(1つに○)

中原区では、男性が43.1%、女性が54.9%となっている。



問2 年齢は満何歳ですか。(○は1つだけ)

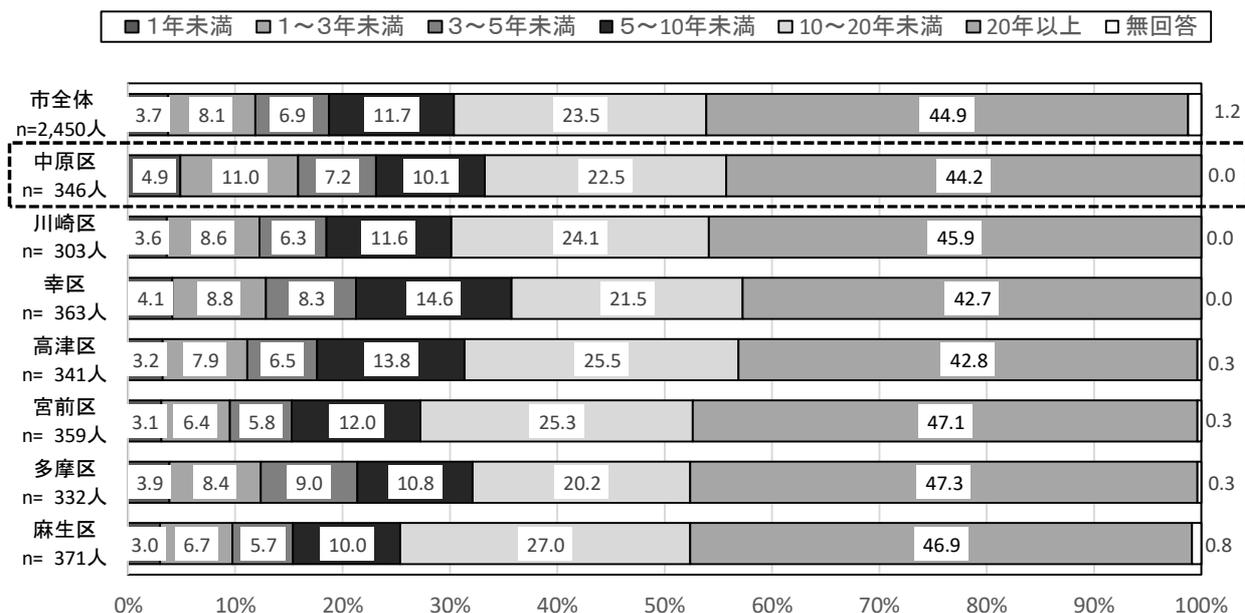
中原区では、70歳以上が21.4%で最も高く、次いで40歳代(19.7%)、50歳代(17.9%)となっている。市全体と比較すると、10~40歳代を合わせた割合が44%と高い。



※問3・問4については、地区を記載する設問のため、地区版では省略します。

問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(○は1つだけ)

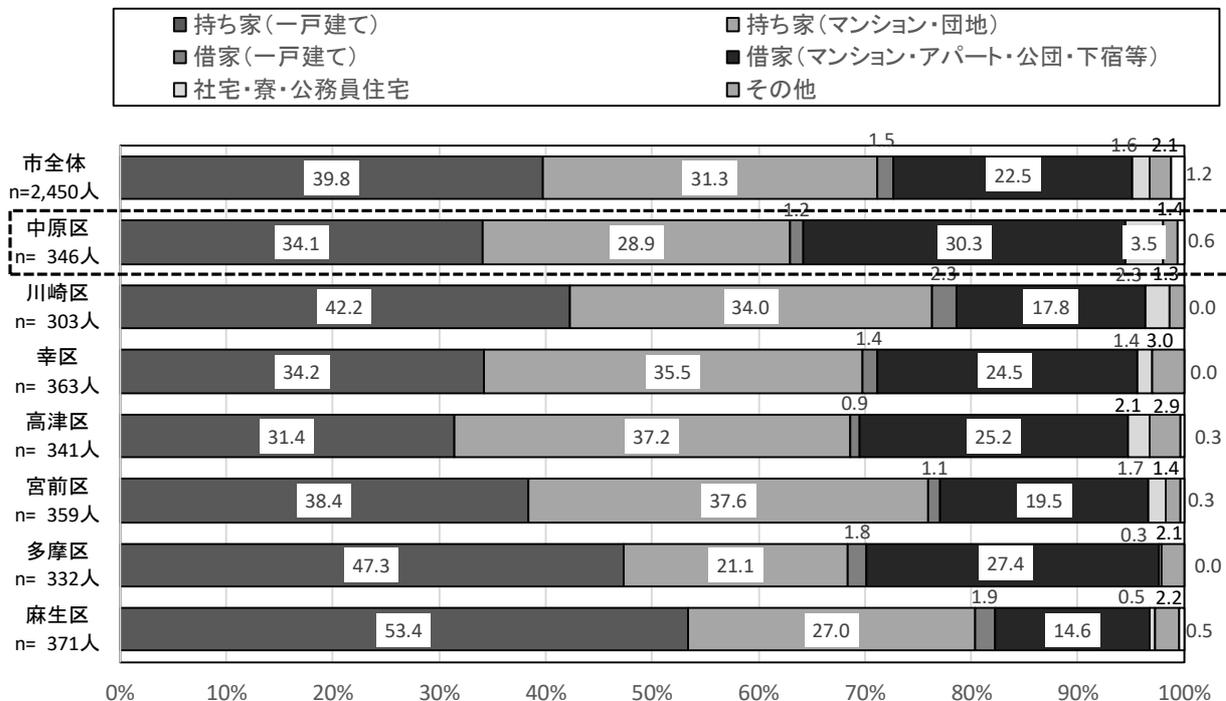
中原区では、20年以上が44.2%で最も高く、次いで10~20年未満(22.5%)、1~3年未満(11.0%)となっている。市内6区と比較すると、1年未満と1~3年未満、3年~5年未満を合わせた割合が23.1%で最も高くなっている。



問6 現在のお住まいの形態を教えてください。(〇は1つだけ)

中原区では、持ち家（一戸建て）の割合が34.1%で最も高く、次いで、借家（マンション・アパート・公団・下宿等）（30.3%）、持ち家（マンション・団地）（28.9%）となっている。

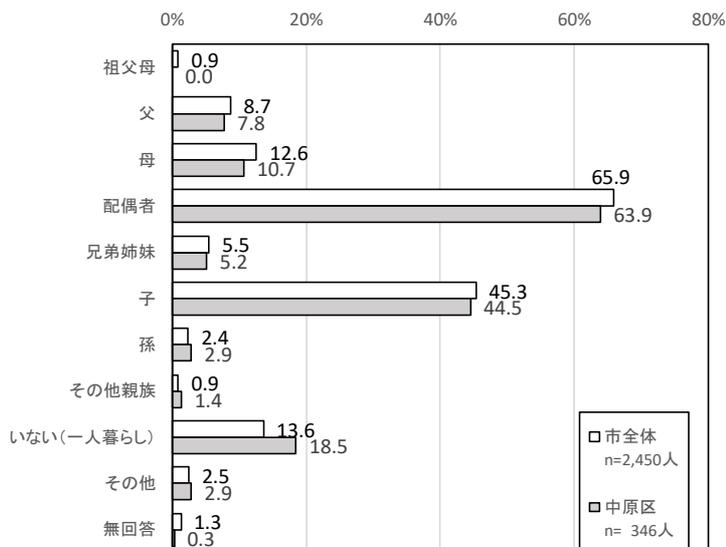
市内6区と比較すると、持ち家（一戸建て）と持ち家（マンション・団地）を合わせた持ち家の割合が63.0%で最も低くなっている。



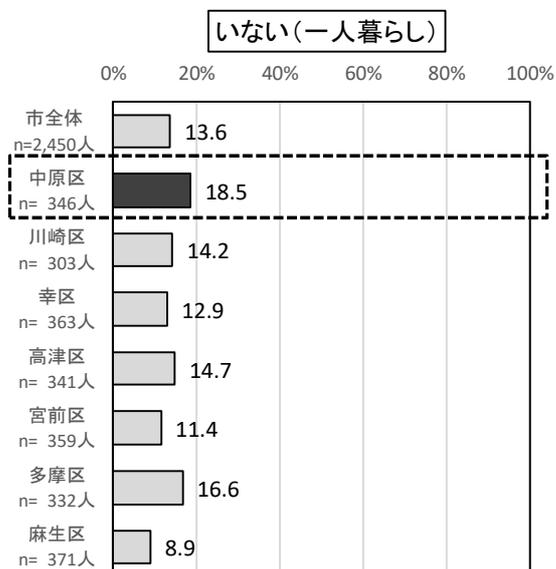
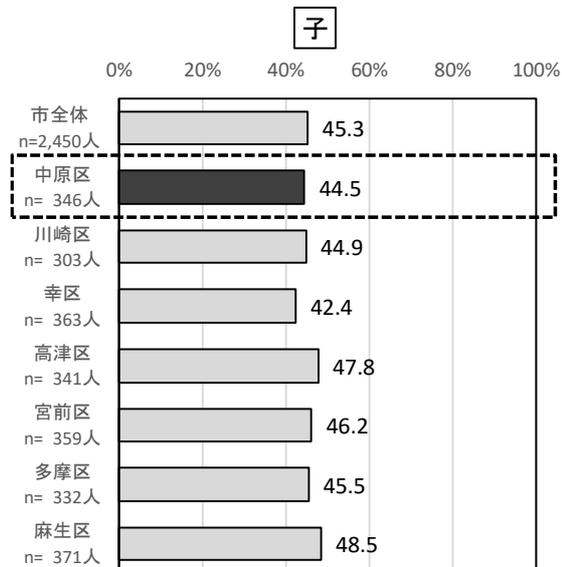
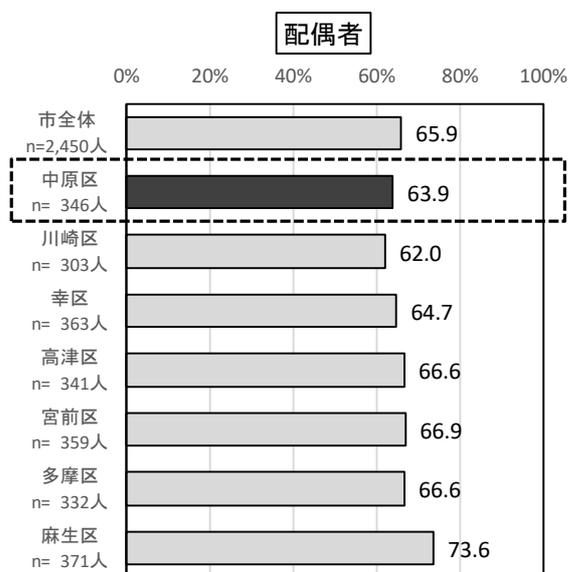
問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

中原区では、「配偶者」が63.9%で最も高く、次いで、「子」が44.5%、「いない(一人暮らし)」が18.5%となっている。

市内6区と比較すると、「配偶者」が63.9%で2番目に低い。また、「子」が44.5%で2番目に低く、「いない(一人暮らし)」が18.5%で最も高い。

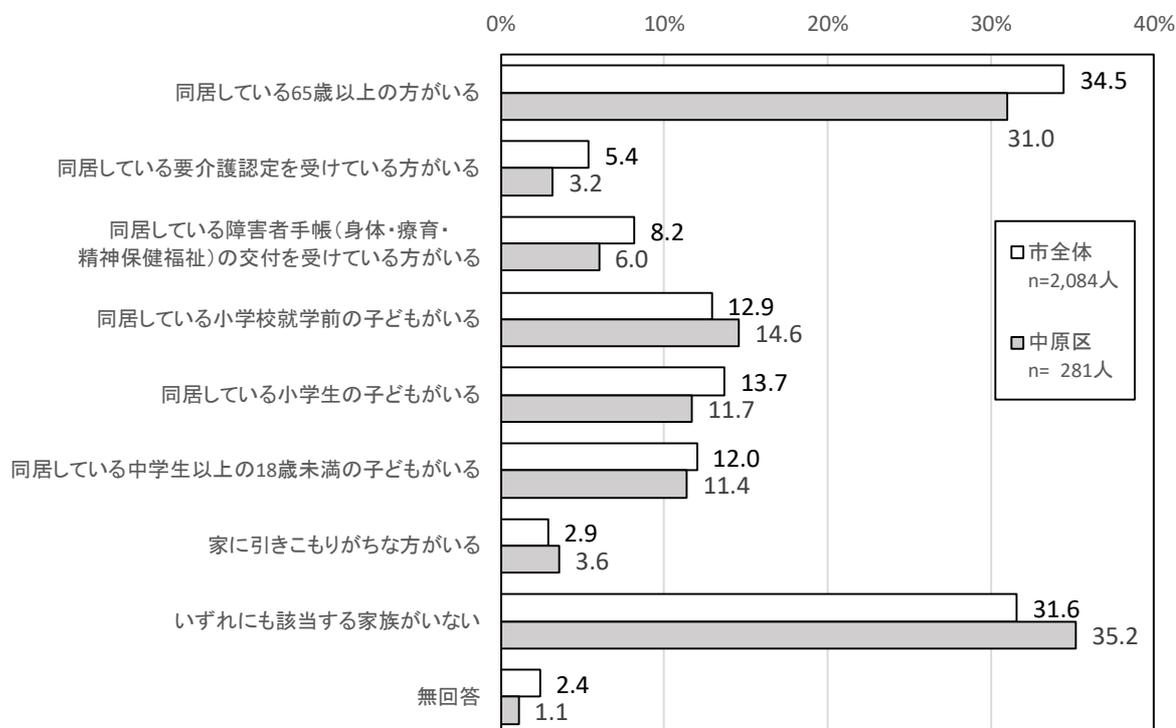


【参考】

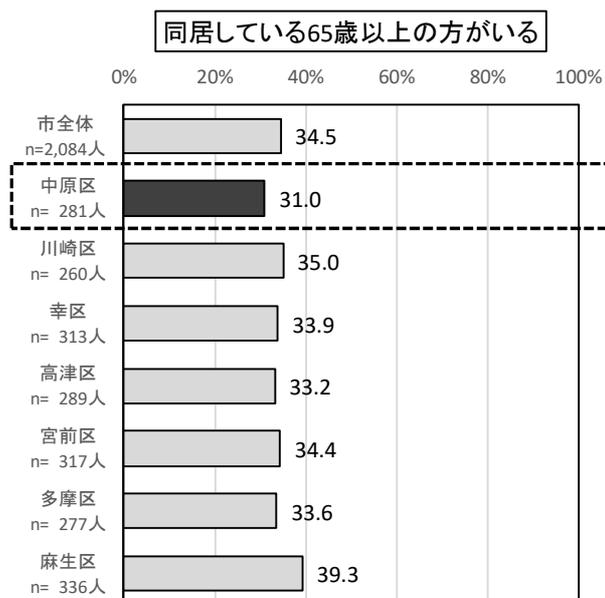


問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「同居している65歳以上の方がいる」が31.0%で市全体（34.5%）を下回っている。市内6区と比較すると、「同居している65歳以上の方がいる」が最も低い。



【参考】

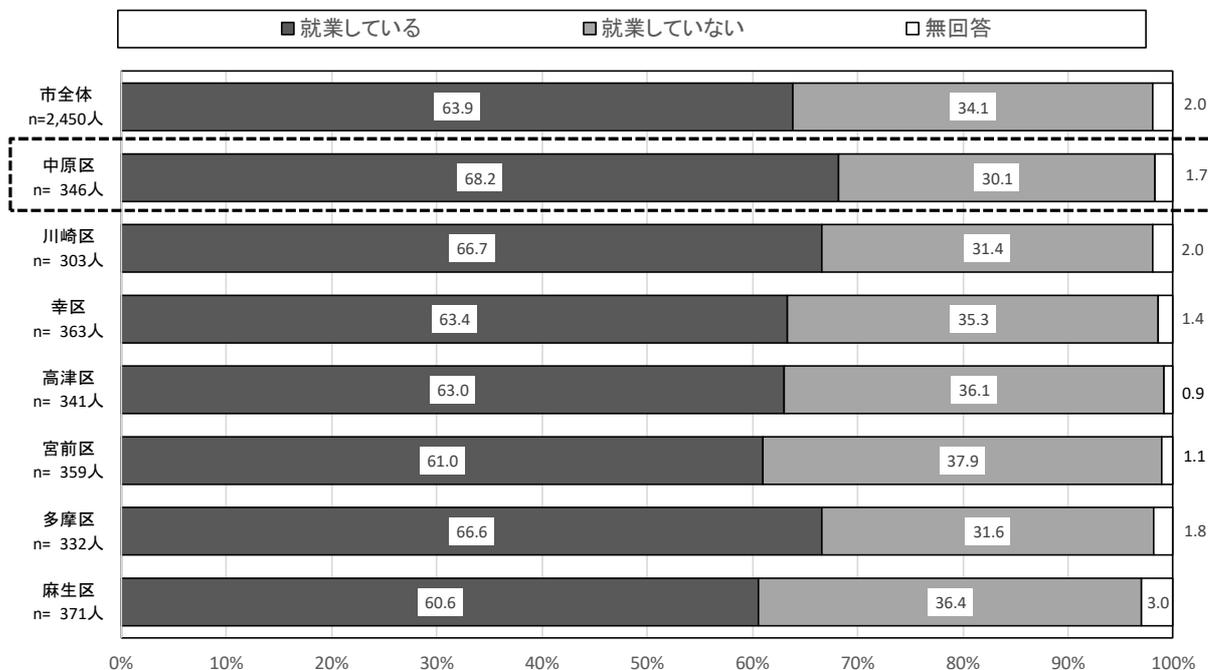


問9 就業の状況はどれに該当しますか。(○は1つだけ)

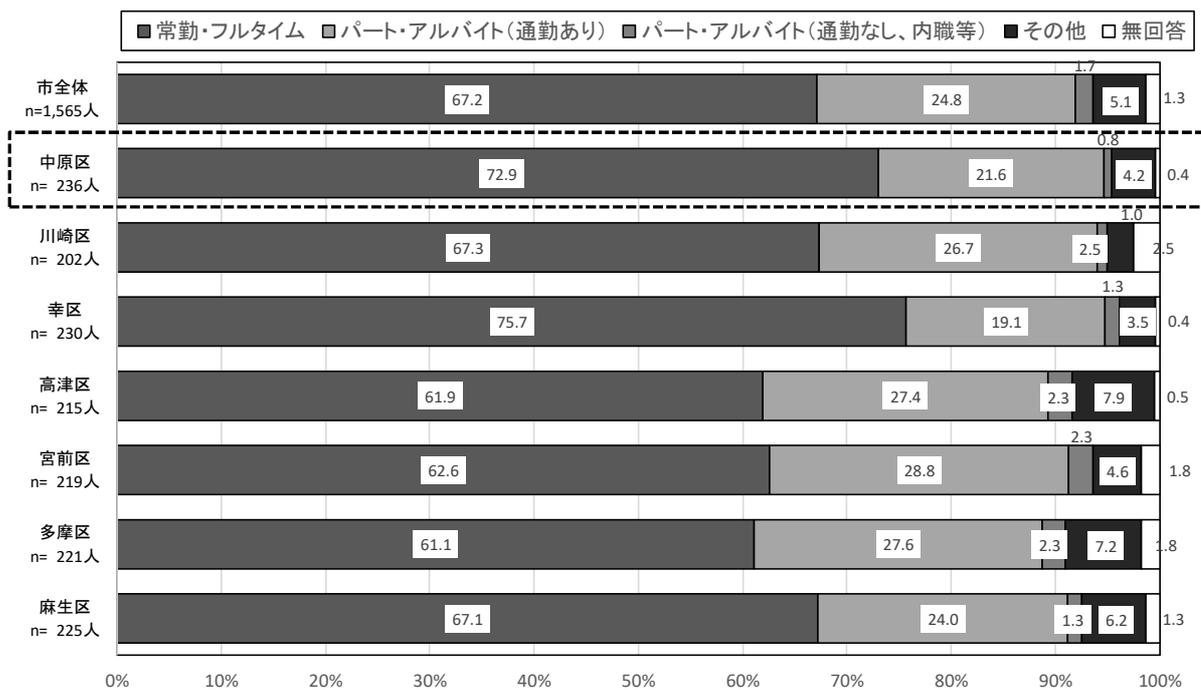
中原区では、就業している割合が68.2%で市全体(63.9%)を上回っている。

就業形態については、常勤・フルタイムが72.9%で市全体(67.2%)を上回っている。市内6区と比較すると、常勤・フルタイムの割合は2番目に高い。

ア. 就業状況



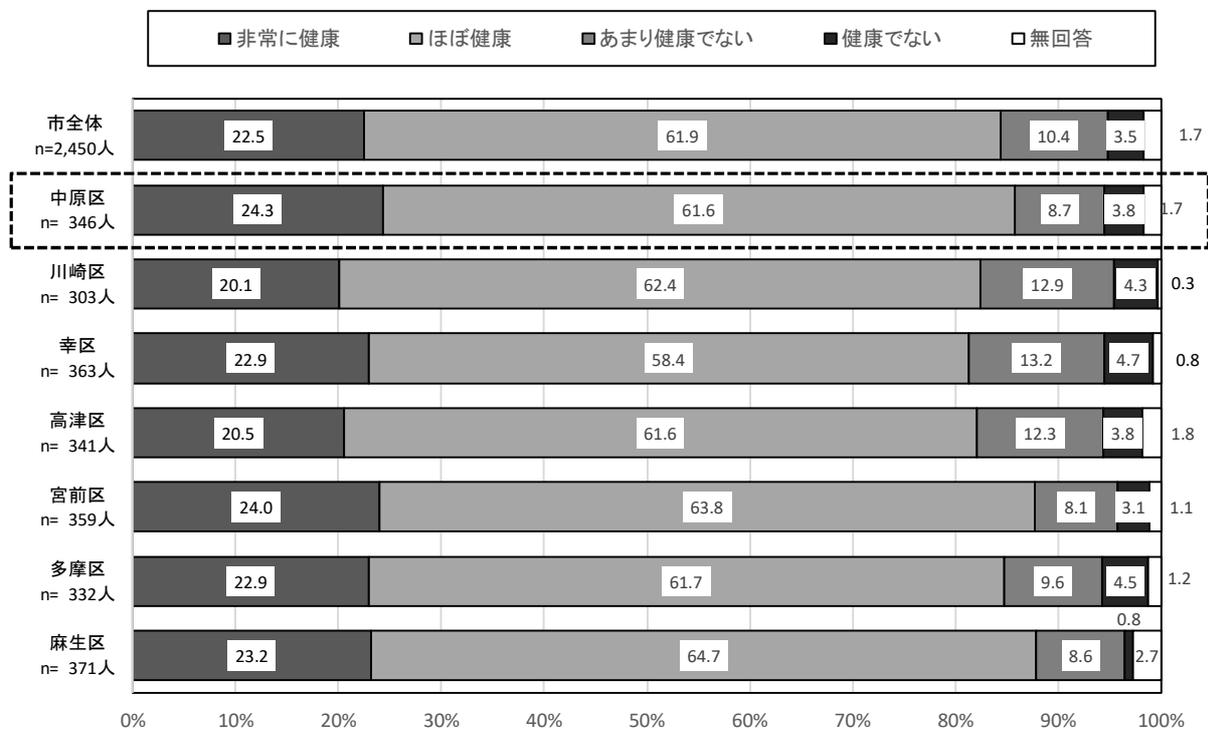
イ. 就業形態



問10 あなたの健康状態はいかがですか。(○は1つだけ)

中原区では、健康状態が「ほぼ健康」の方の割合が61.6%で市全体(61.9%)ほぼ同程度となっている。

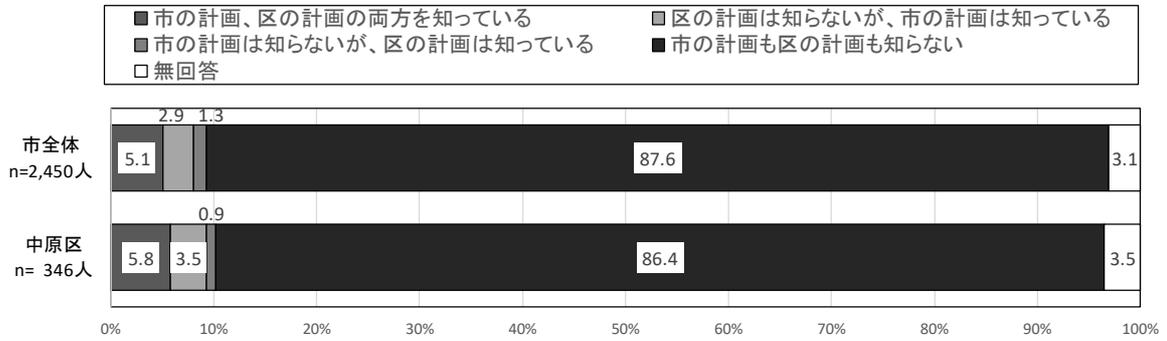
市内6区と比較すると、「ほぼ健康」(61.6%)、「非常に健康」(24.3%)を合わせた割合が85.9%と3番目に高い。



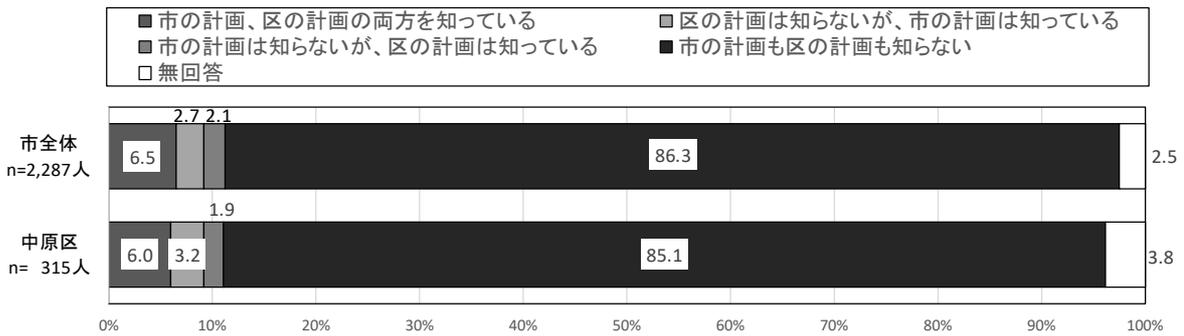
2. 『川崎市地域福祉計画』について

問 12 あなたは、川崎市に『第6期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。（○は1つだけ）

中原区では、「両方知らない」割合が86.4%となっている。第5回調査結果と比較すると、「市の計画も区の計画も知らない」割合は、1.3ポイント増加している。



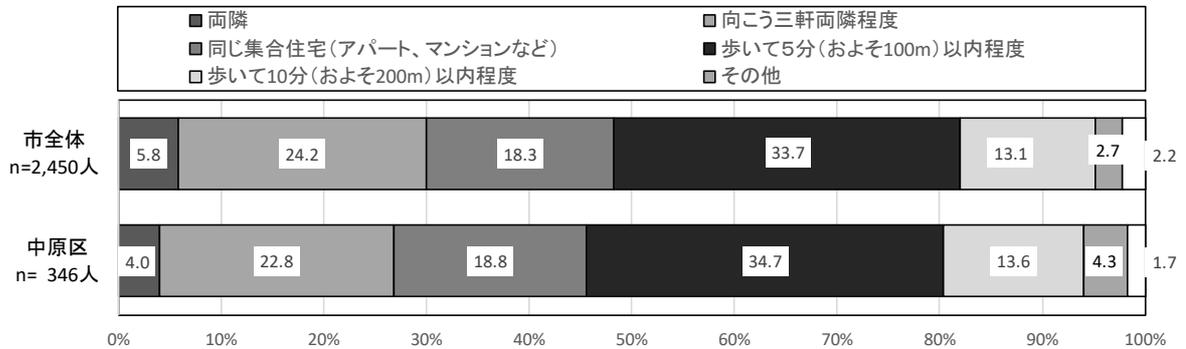
【参考】第5回調査結果



3. 居住地域について

問 13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(○は1つだけ)

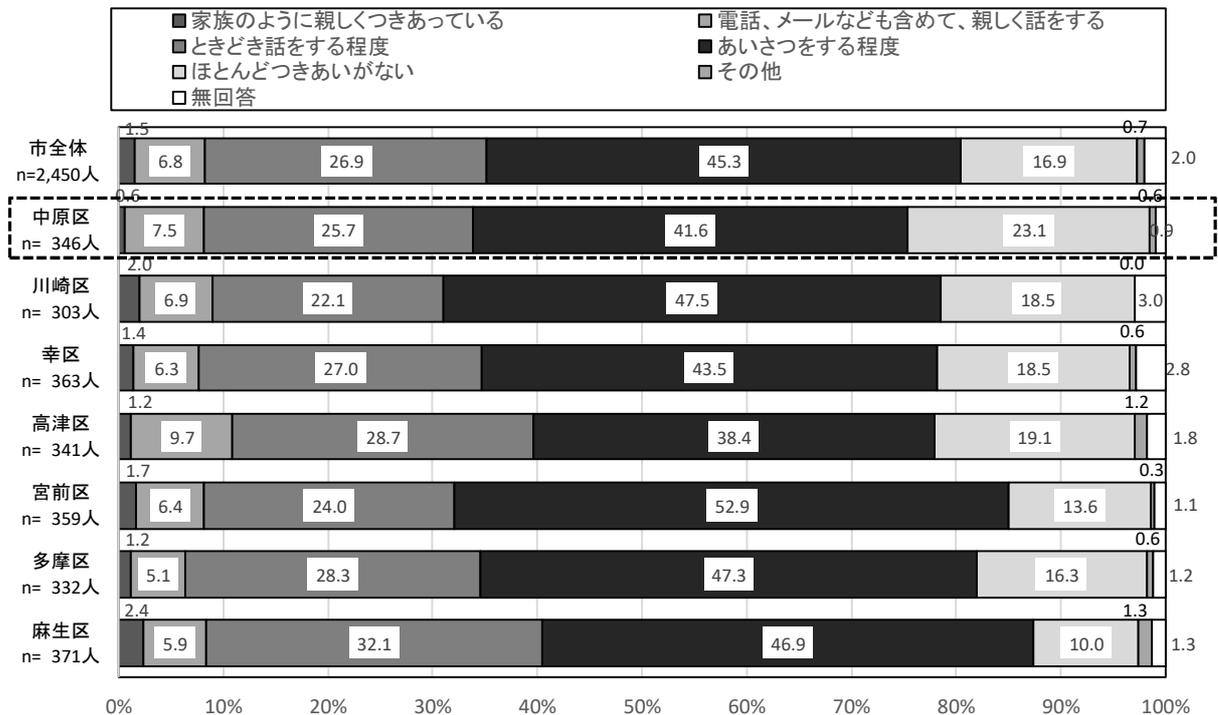
中原区では、「向こう三軒両隣」の割合が22.8%で市全体(24.2%)を下回っている。



問 14 あなたは、ふだんご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(○は1つだけ)

中原区では、「ときどき話をする程度」の割合が25.7%で市全体(26.9%)を下回っている。

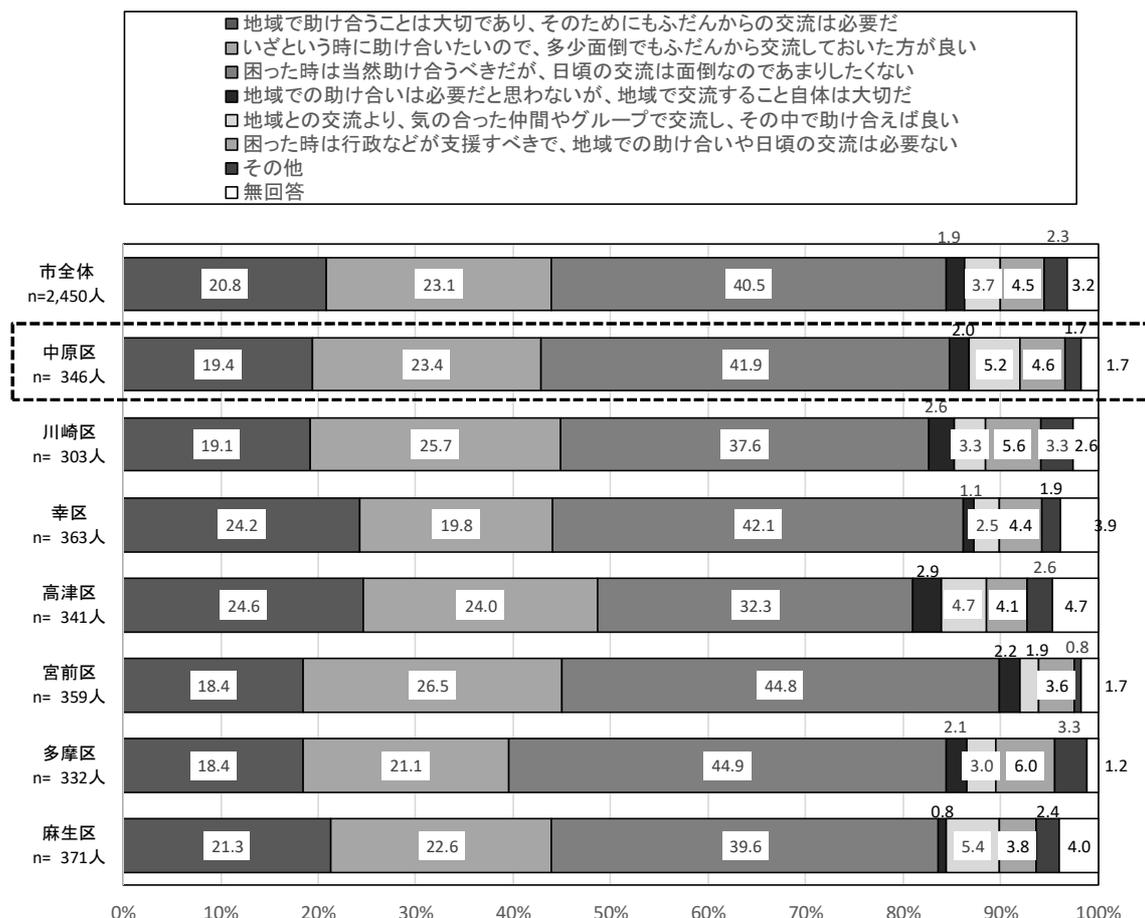
市内6区と比較すると、「電話、メールなども含めて、親しく話をする」についての割合は7.5%で2番目に高くなっているが、「ほとんどつきあいが無い」の割合は23.1%と最も高くなっている。



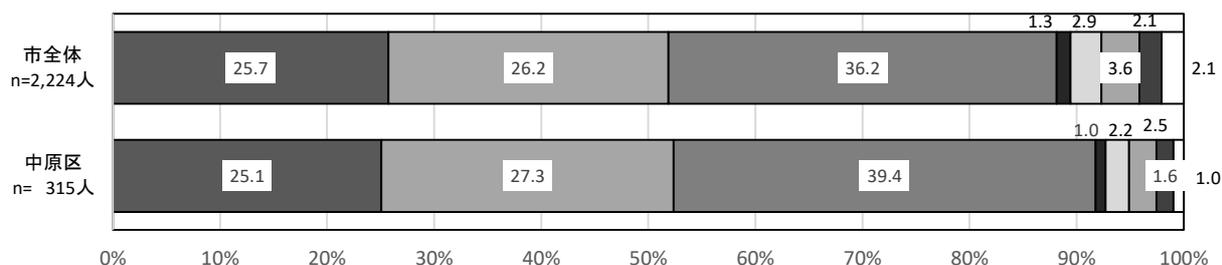
問 15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。
 (○は1つだけ)

中原区では、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が
 良い」の割合が 23.4%で市全体 (23.1%) とほぼ同程度となっている。市内 6 区と比較すると、「困
 った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日頃の交流は必要ない」の割合は 4.6%で、
 3 番目に高くなっている。

また、第 5 回調査結果と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだん
 からの交流は必要だ」の割合が 5.7 ポイント減少し、「困った時は当然助け合うべきだが、日頃の
 交流は面倒なのであまりしたくない」の割合が 2.5 ポイント増加している。

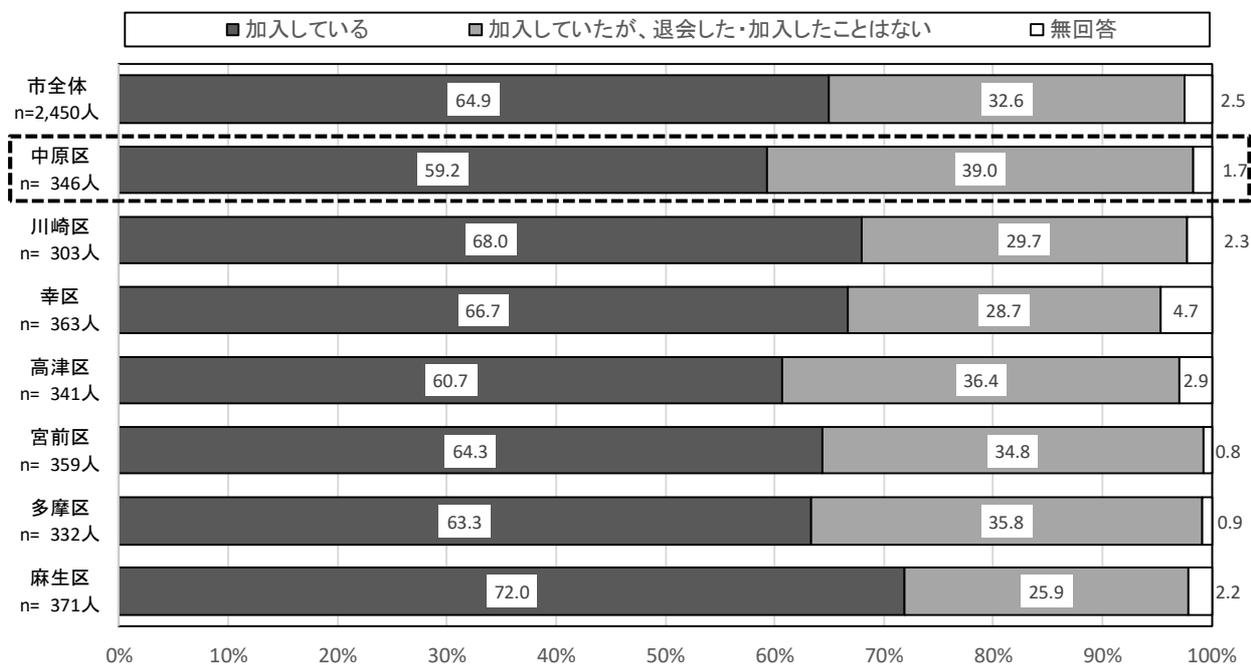


【参考】 第 5 回調査結果



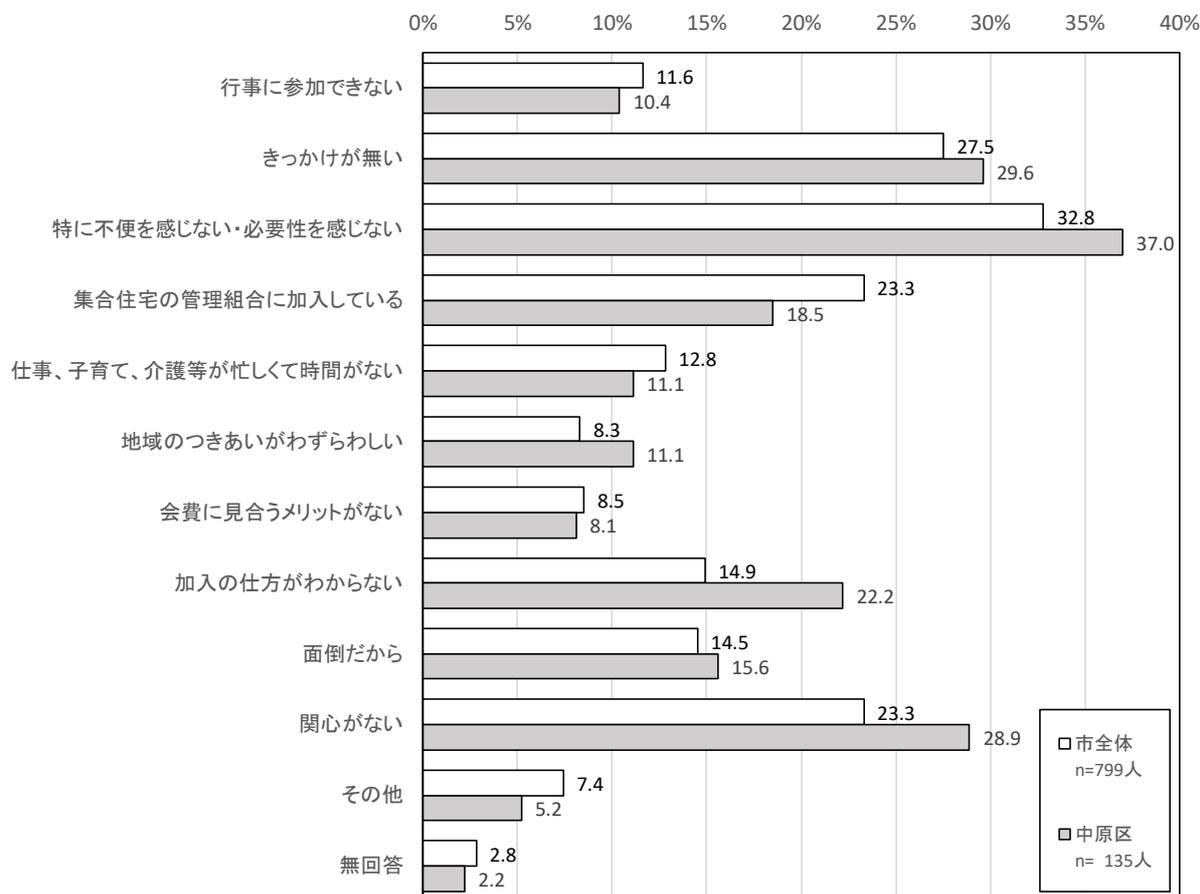
問 16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ)

中原区では、「加入している」割合が59.2%で市全体(64.9%)を下回っている。
市内6区と比較すると、「加入している」割合は最も低くなっている。



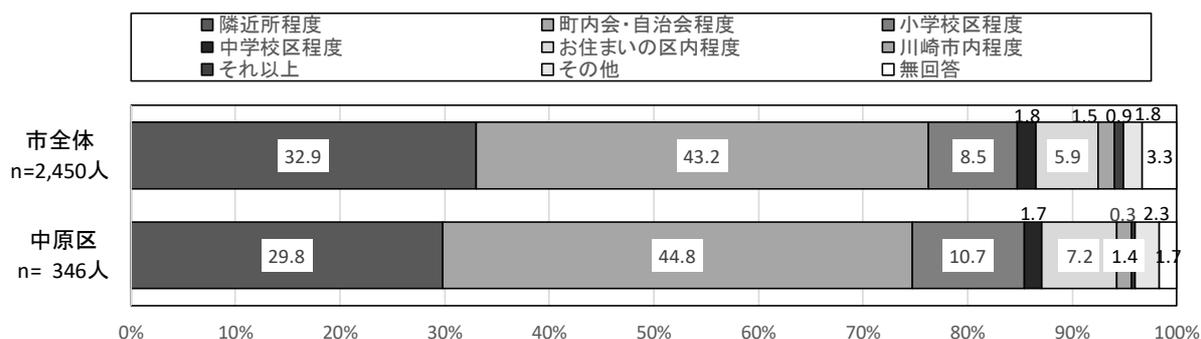
問 16 - 1 《問 16 で「加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方》現在加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「特に不便を感じない・必要性を感じない」の割合が 37.0%で最も高く、市全体（32.8%）を上回っている。



問 17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（○は1つだけ）

中原区では、「町内会・自治会程度」の割合が 44.8%で最も高く、市全体（43.2%）を上回っている。

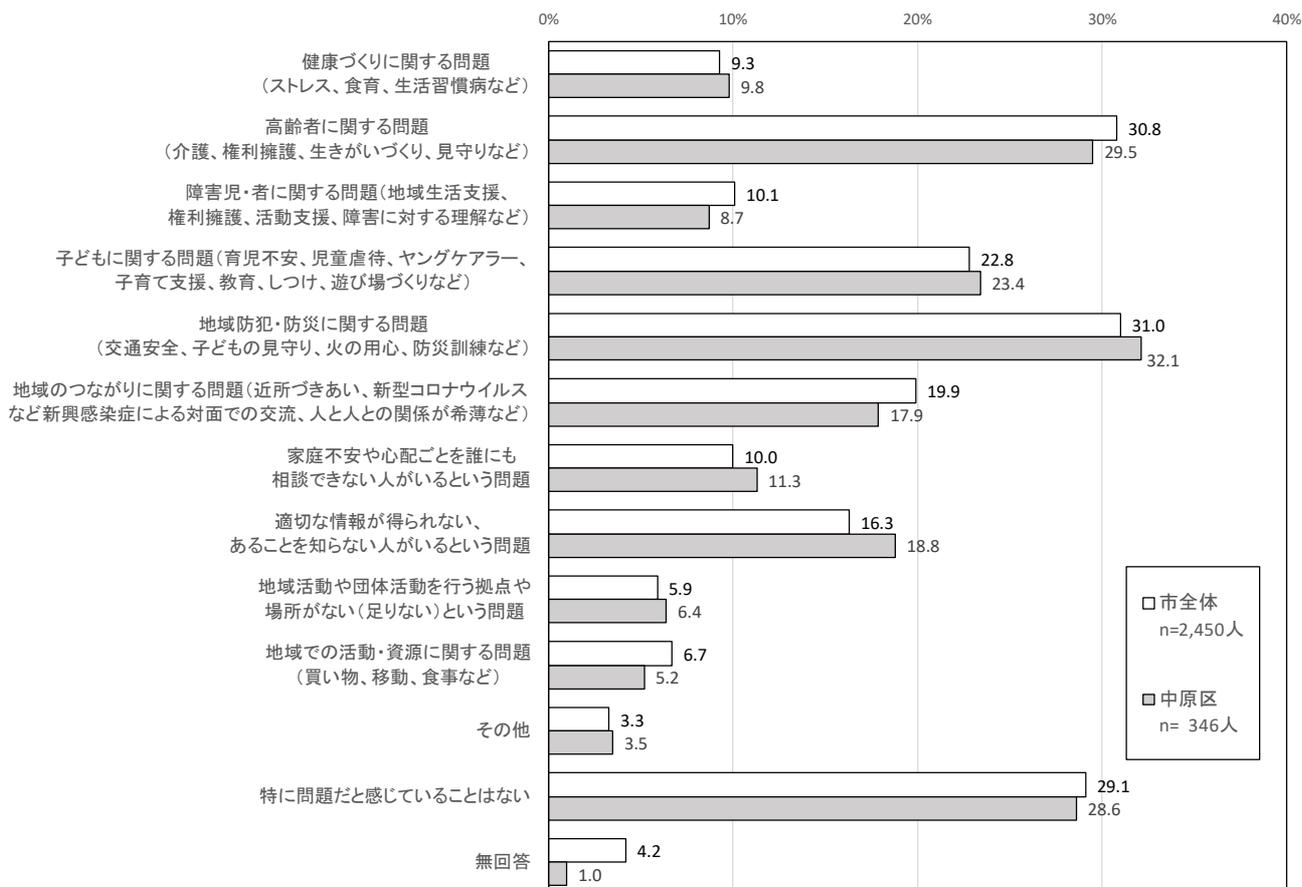


問 18 あなたは、その「地域」での生活において、いま何が問題だと感じていますか。

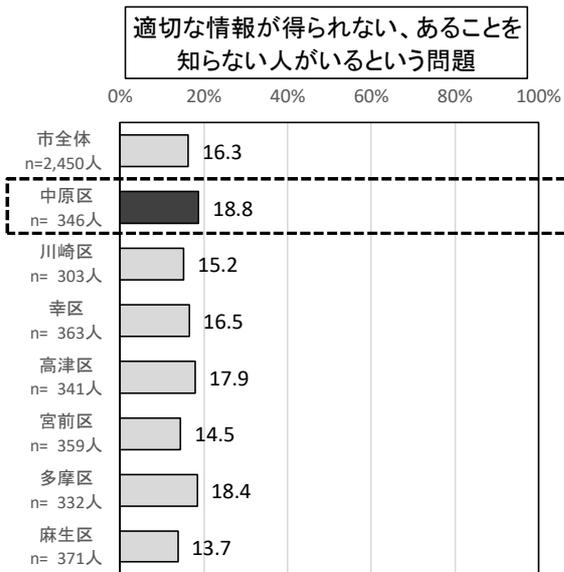
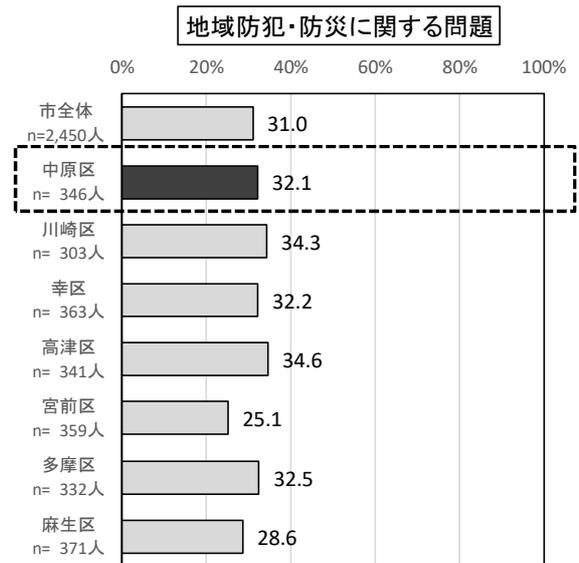
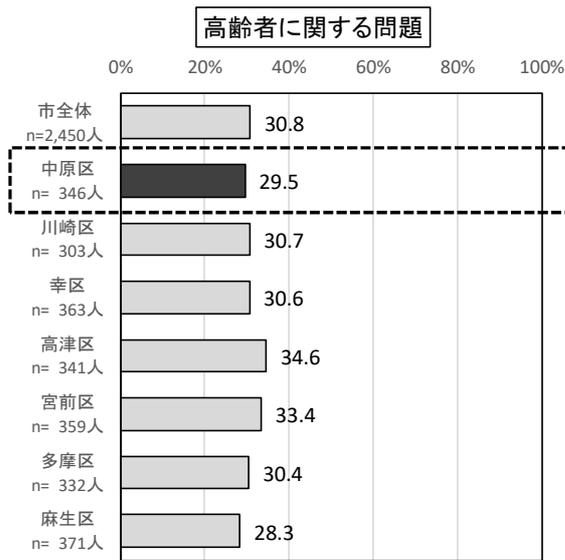
(あてはまるものすべてに○)

中原区では、「地域防犯・防災に関する問題（交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など）」の割合が32.1%で最も高く、次いで「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいがづくり、見守りなど）」（29.5%）、「特に問題だと感じていることはない」（28.6%）となっている。

市内6区と比較すると、「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいがづくり、見守りなど）」（29.5%）は2番目に低く、「地域防犯・防災に関する問題（交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など）」（32.1%）は3番目に低い。一方、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題」（18.8%）は最も高くなっている。



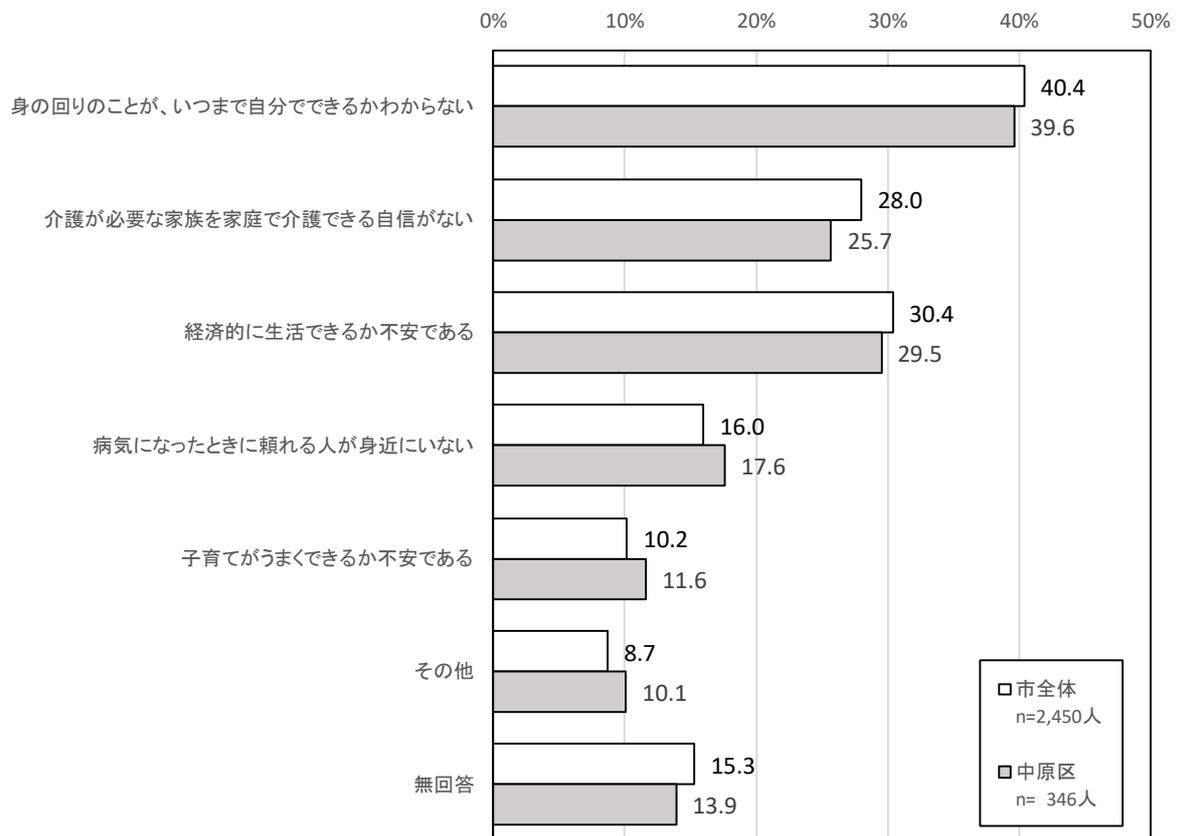
【参考】



問 19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

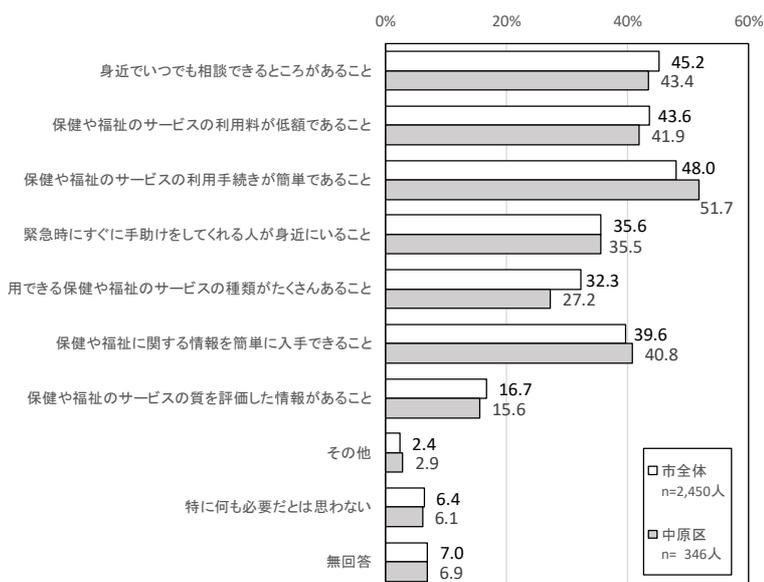
中原区では、「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」の割合が 39.6%で最も高く、次いで「経済的に生活できるか不安である」(29.5%)、「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」(25.7%)となっている。



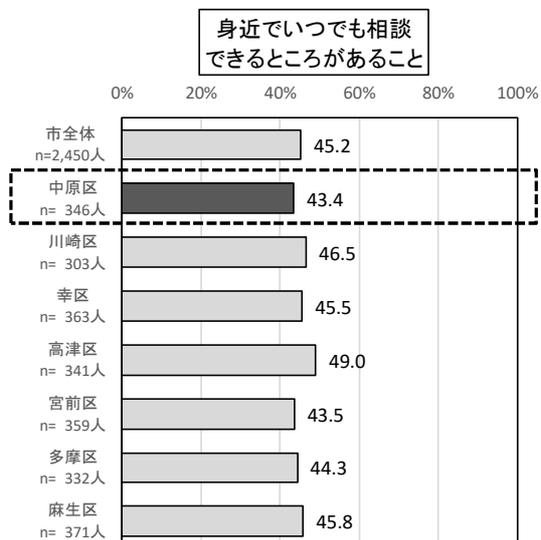
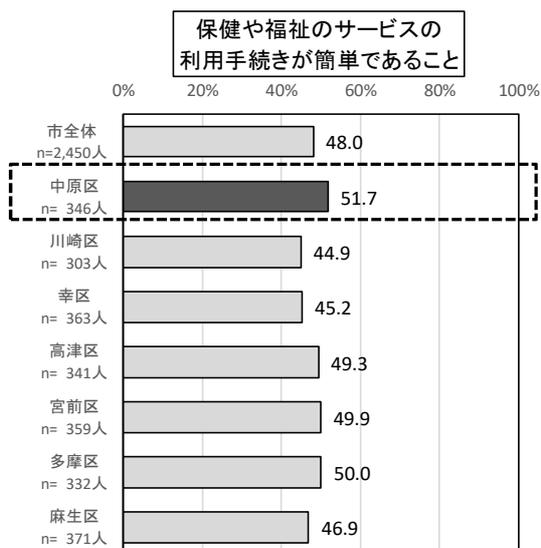
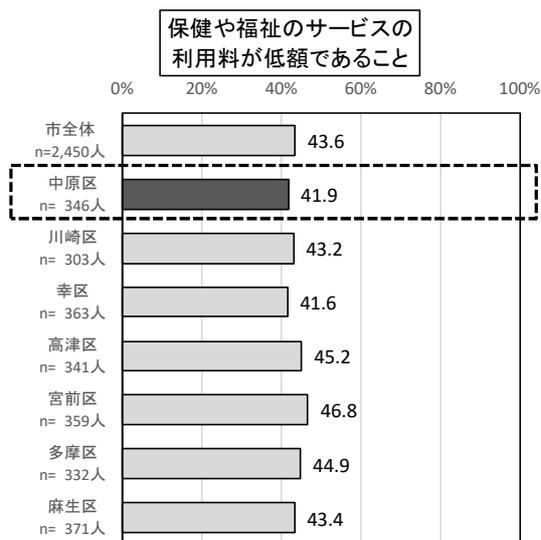
問 20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

中原区では、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」が 51.7% で市全体 (48.0%) を上回っている。

市内 6 区と比較すると、「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」は 41.9% と 2 番目に低く、「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」は 51.7% と最も高い。また、「身近でいつでも相談できるところ」は 43.4% と最も低くなっている。



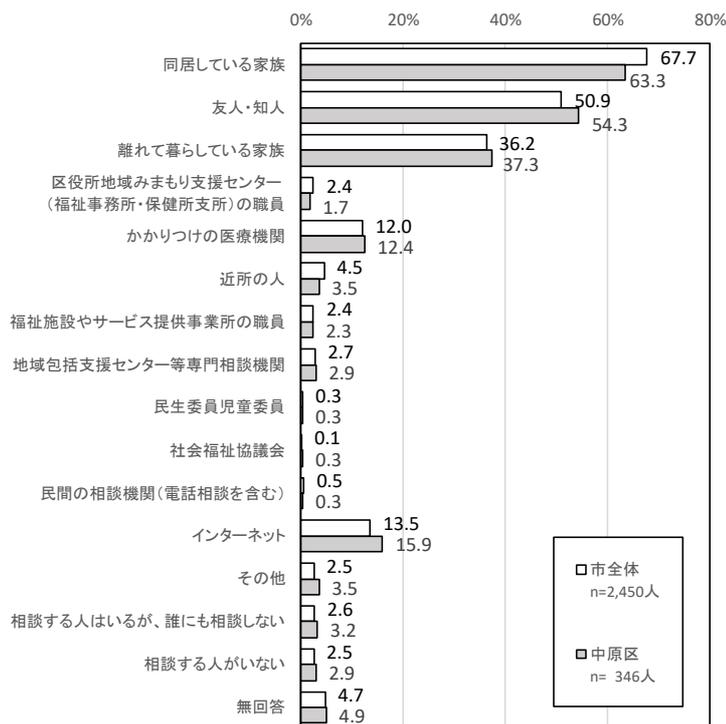
【参考】



問 21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。
 (あてはまるものすべてに○)

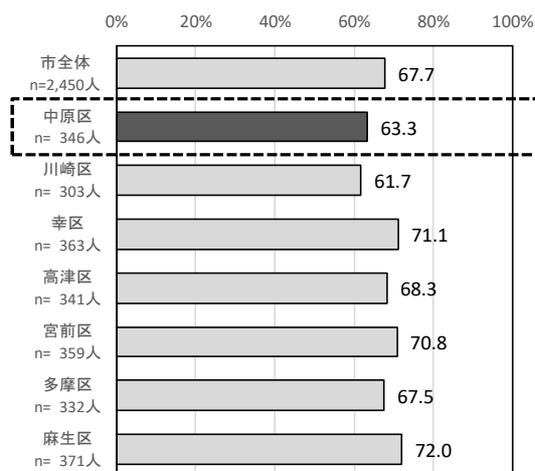
中原区では、「同居している家族」が63.3%で市全体(67.7%)を下回っている。

市内6区と比較すると、「同居している家族」が63.3%と2番目に低くなっている。また、「友人・知人」が54.3%と最も高く、「離れて暮らしている家族」が37.3%で4番目に高くなっている。

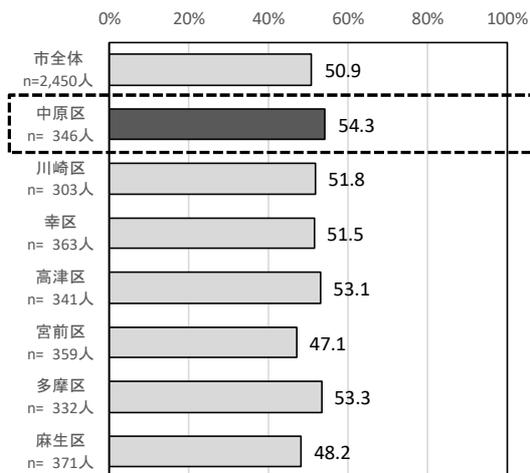


【参考】

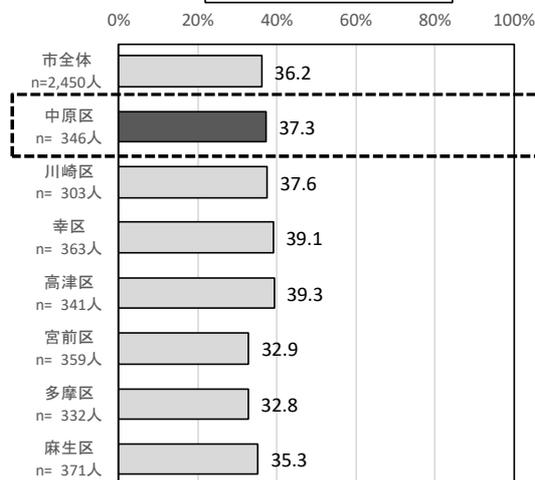
同居している家族



友人・知人



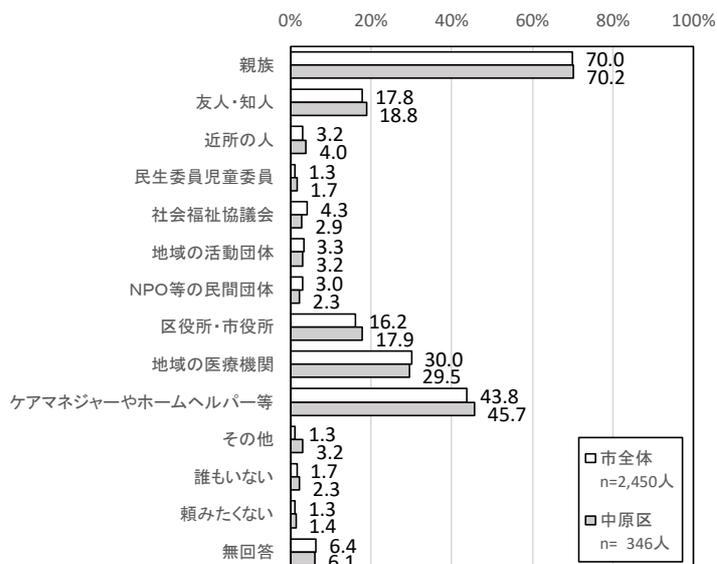
離れて暮らしている家族



問 23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。（○は3つまで）

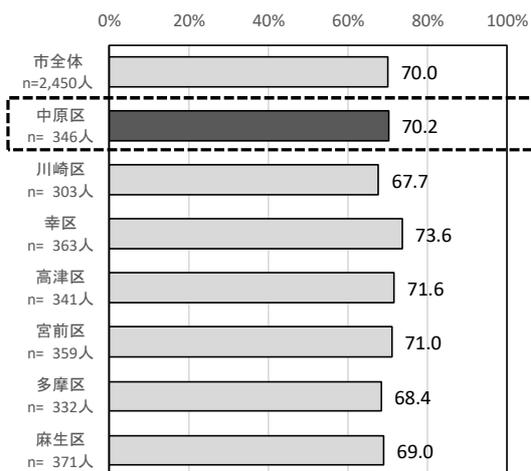
中原区では、「親族」は70.2%で市全体（70.0%）と同程度となっている。

市内6区と比較すると、「親族」は70.2%と4番目に高く、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」は45.7%と最も高い。一方、「地域の医療機関」は29.5%と3番目に低くなっている。

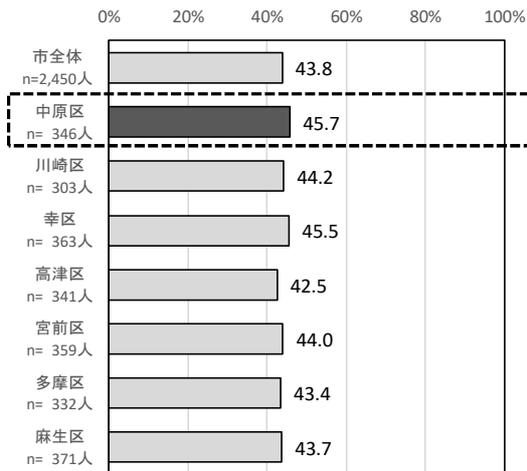


【参考】

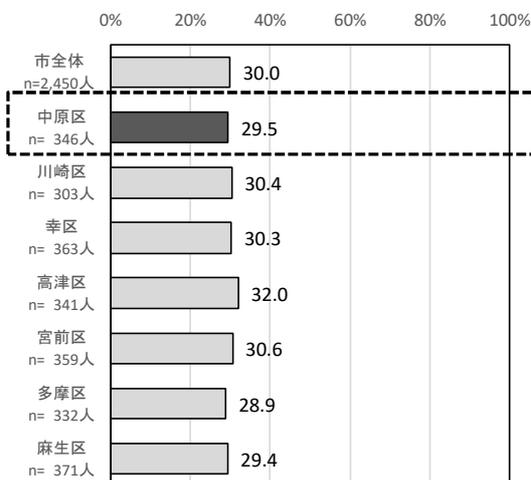
親族



ケアマネジャーやホームヘルパー等



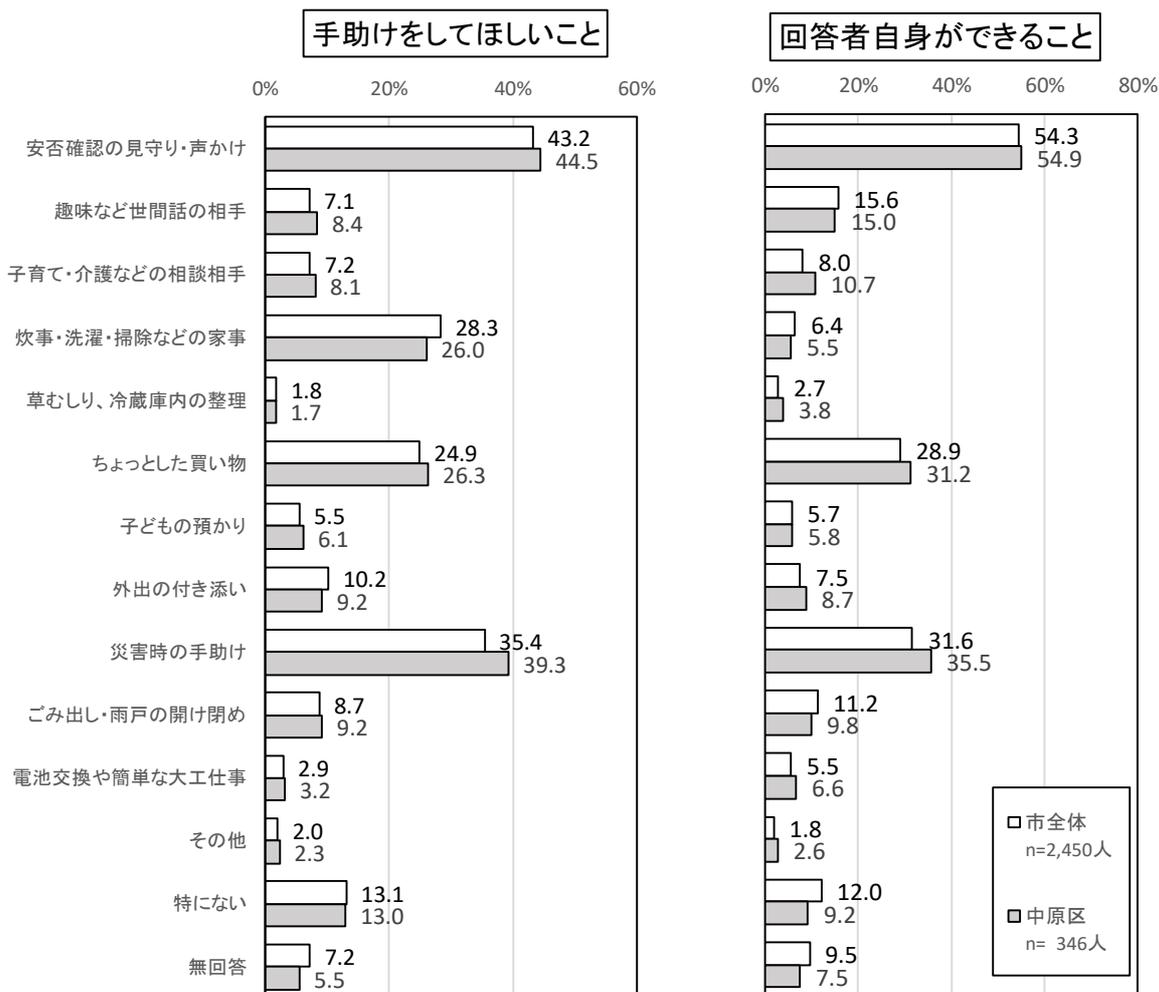
地域の医療機関



問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにご
んな手助けをしてほしいですか。(〇は3つまで)

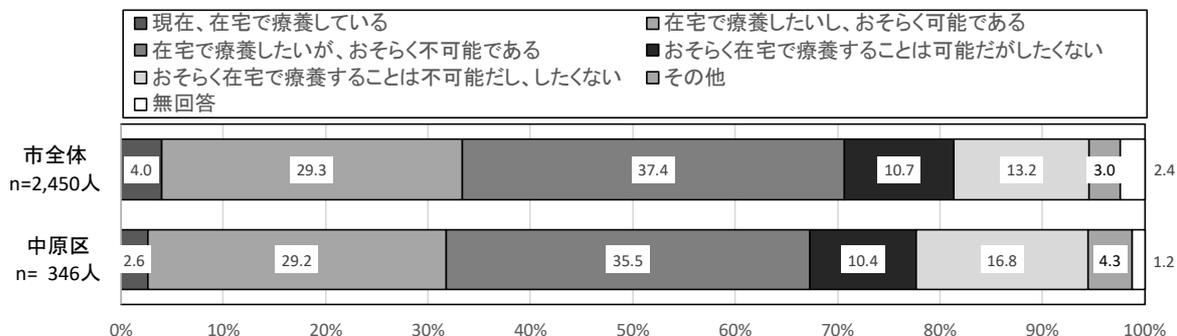
問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合
いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(〇は3つまで)

中原区では、手助けをしてほしいことについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が44.5%
で最も高く、次いで「災害時の手助け」(39.3%)、「ちょっとした買い物」(26.3%)となっ
ており、自身ができることについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が54.9%で最も高く、次
いで「災害時の手助け」(35.5%)、「ちょっとした買い物」(31.2%)と市全体を上回っている。



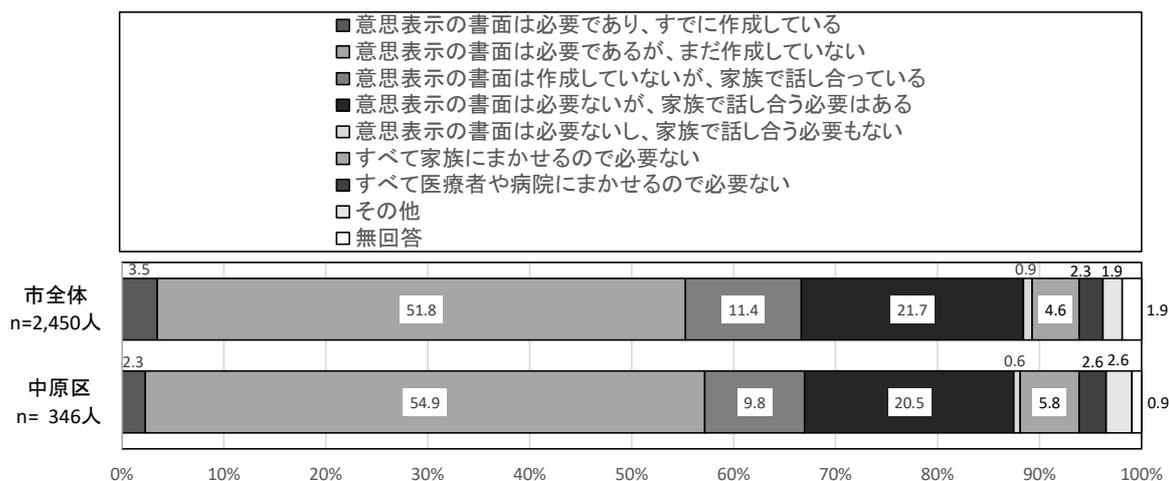
問 26 現在、あなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要になった場合に、病院や介護施設などに入院・入居せずに在宅で療養することは可能ですか。（○は1つだけ）

中原区では、「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が35.5%で最も高く、次いで「在宅で療養したいし、おそらく可能である」（29.2%）、「おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない」（16.8%）となっている。



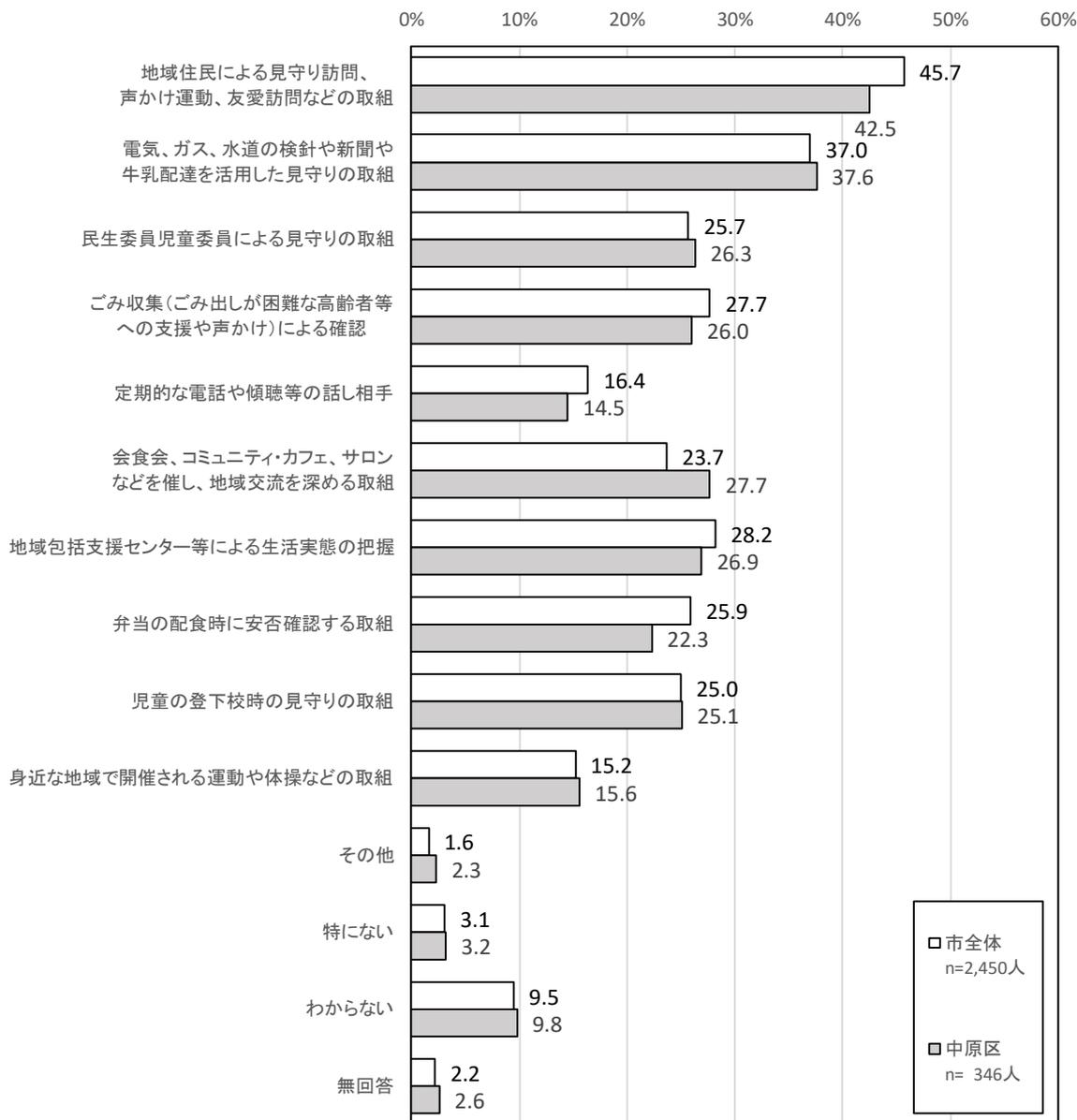
問 27 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。（○は1つだけ）

中原区では、「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が54.9%で最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」（20.5%）、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」（9.8%）となっている。



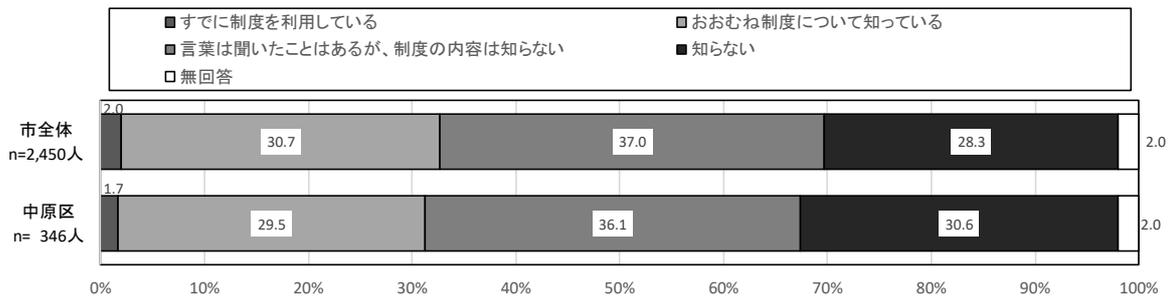
問 28 社会的不安や孤独・孤立の問題に対応していくために、地域での見守りの取組として、有効だと思う取組はありますか。（〇は5つまで）

中原区では、「地域住民による見守り訪問、声かけ運動、友愛訪問などの取組」の割合が42.5%で最も高く、次いで「電気、ガス、水道の検針や新聞や牛乳配達を活用した見守りの取組」(37.6%)、「会食会、コミュニティ・カフェ、サロンなどを催し、地域交流を深める取組」(27.7%)となっている。



問 29 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

中原区では、「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」の割合が36.1%で最も高く、次いで「知らない」(30.6%)、「おおむね制度について知っている」(29.5%)となっている。

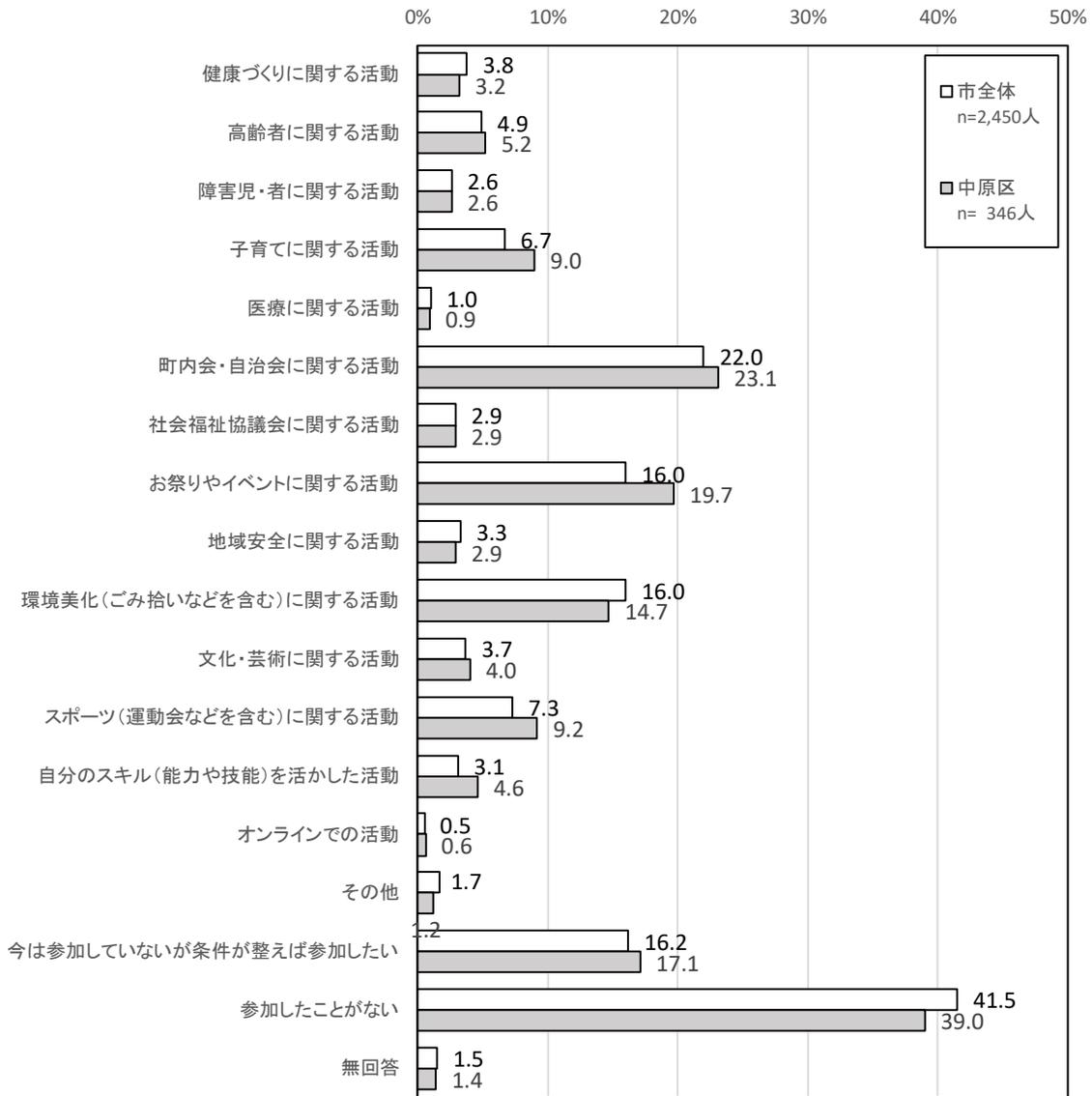


4. 地域活動やボランティア活動について

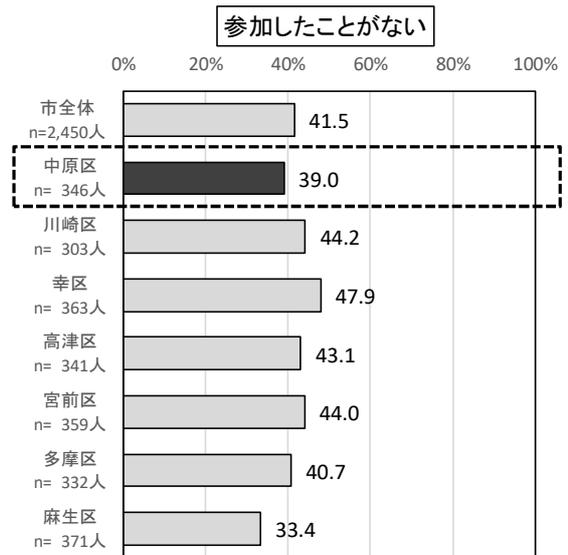
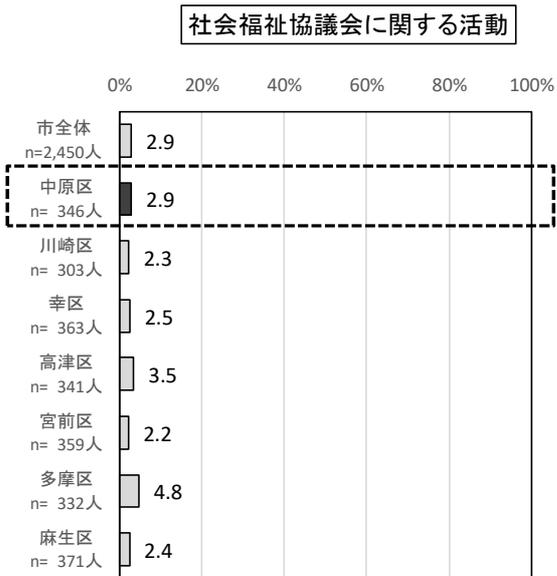
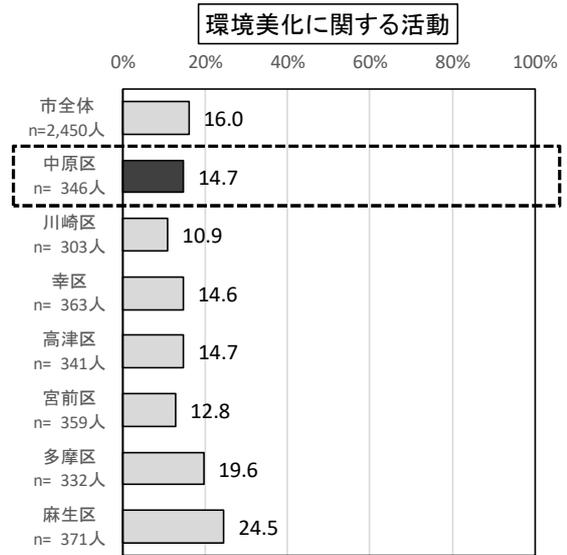
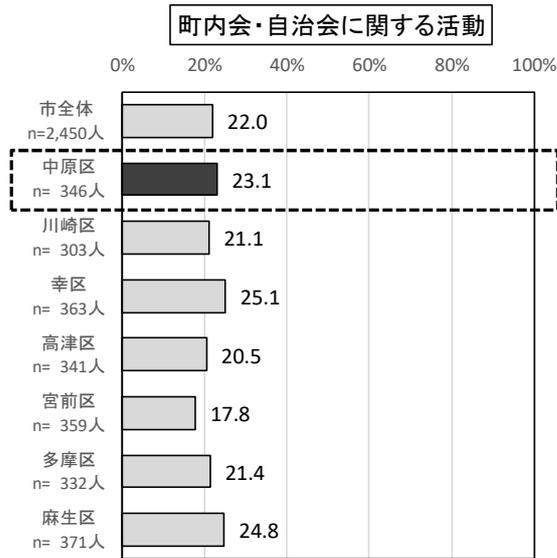
問 30 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「参加したことがない」の割合が39.0%で最も高く、次いで「町内会・自治会に関する活動」（23.1%）、「お祭りやイベントに関する活動」（19.7%）となっている。

市内6区と比較すると、「参加したことがない」の割合は39.0%と2番目に低い。

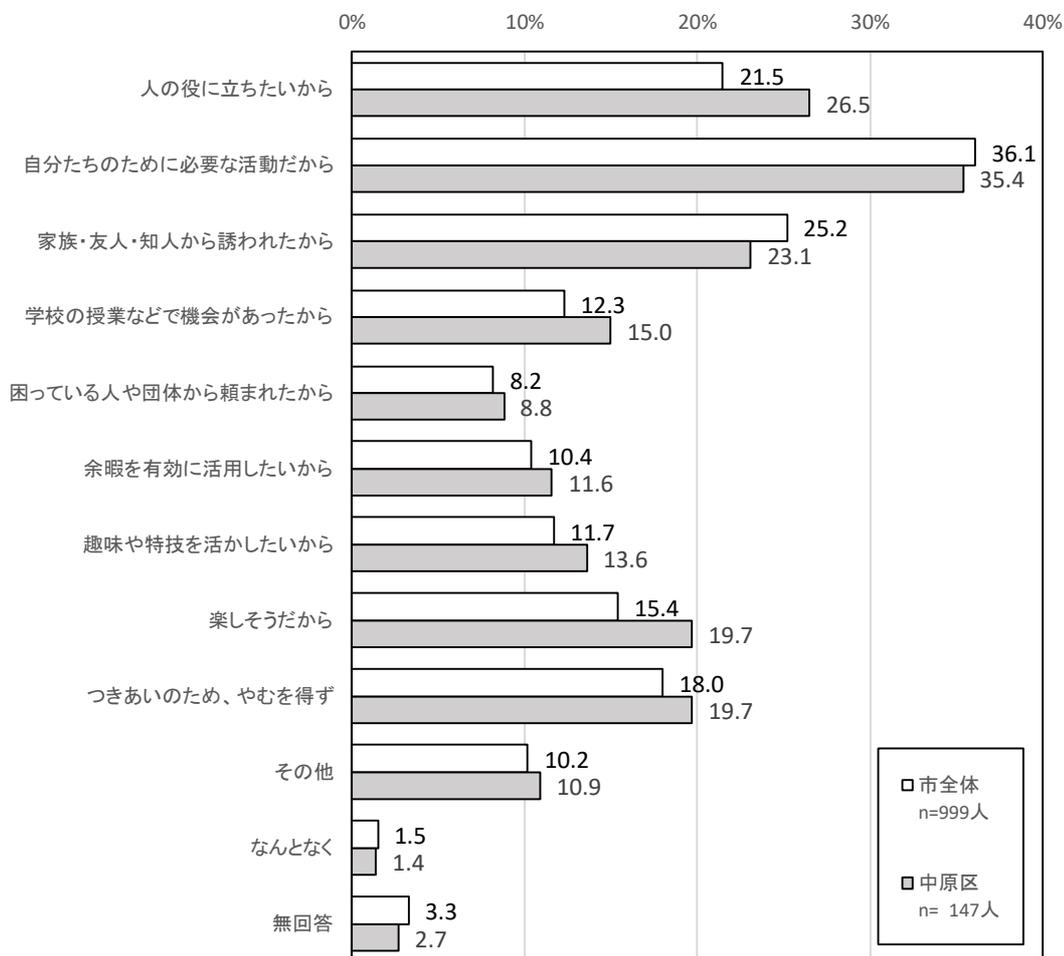


【参考】

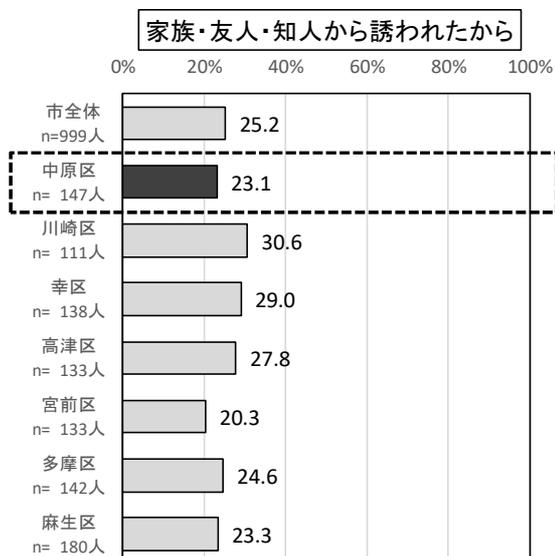
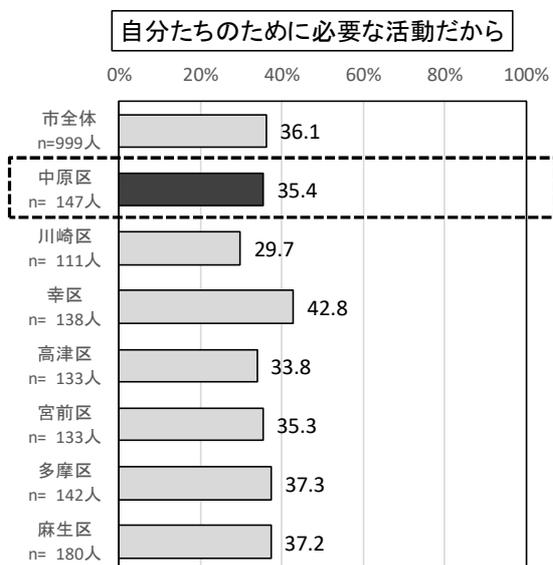


問 30-1 《問 30 で「1」～「13」のいずれか（ボランティア活動に参加したことがある）にお答えの方》活動に参加した動機やきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が 35.4%で最も高く、次いで「人の役に立ちたいから」（26.5%）、「家族・友人・知人から誘われたから」（23.1%）となっている。
市内 6 区と比較すると、「家族・友人・知人に誘われたから」（23.1%）が 2 番目に低い。



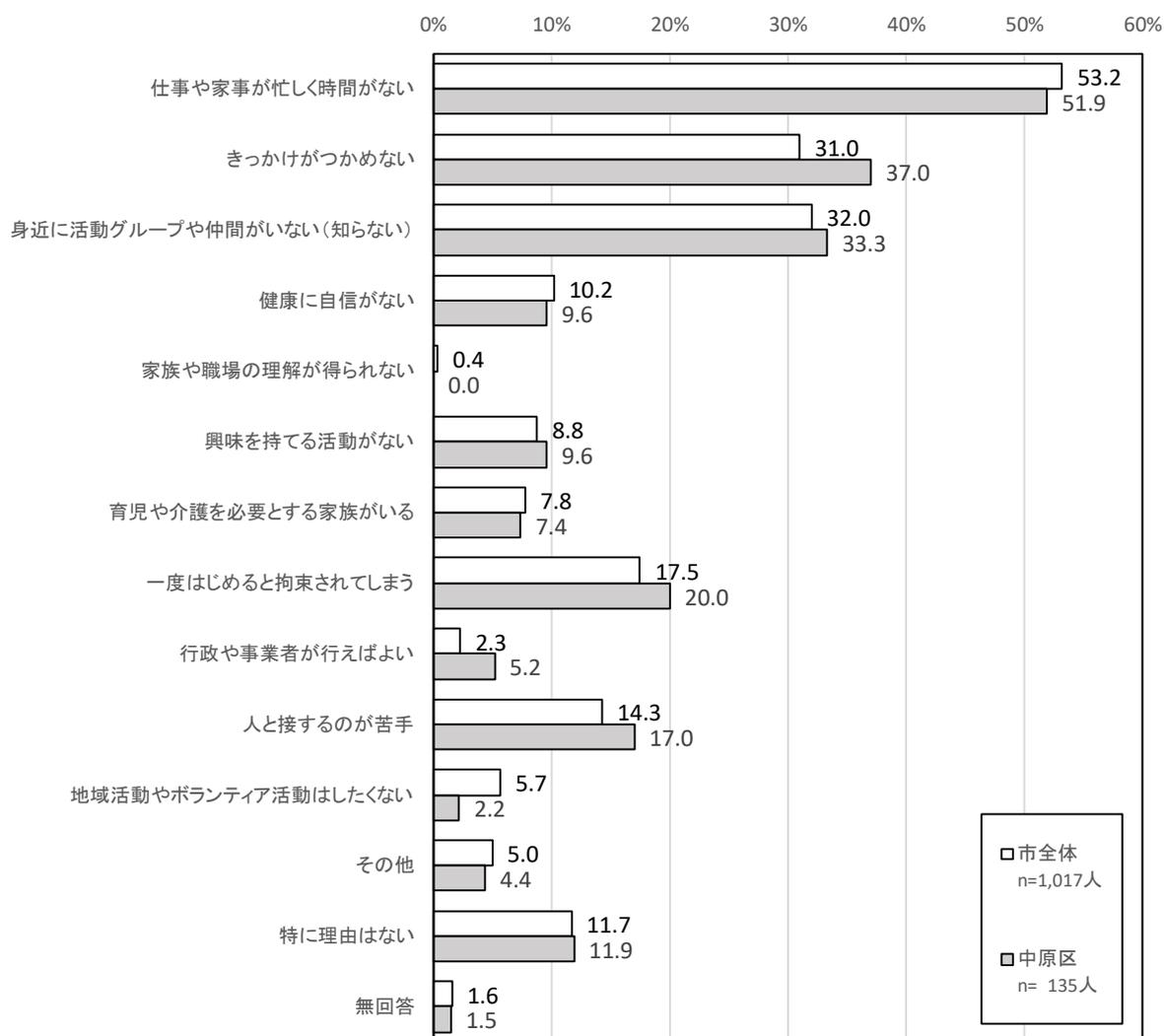
【参考】



問 30-6 《問 30 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。
 (あてはまるものすべてに○)

中原区では、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が51.9%で最も高く、次いで「きっかけがつかめない」(37.0%)、「身近に活動グループや仲間がいない(知らない)」(33.3%)となっている。

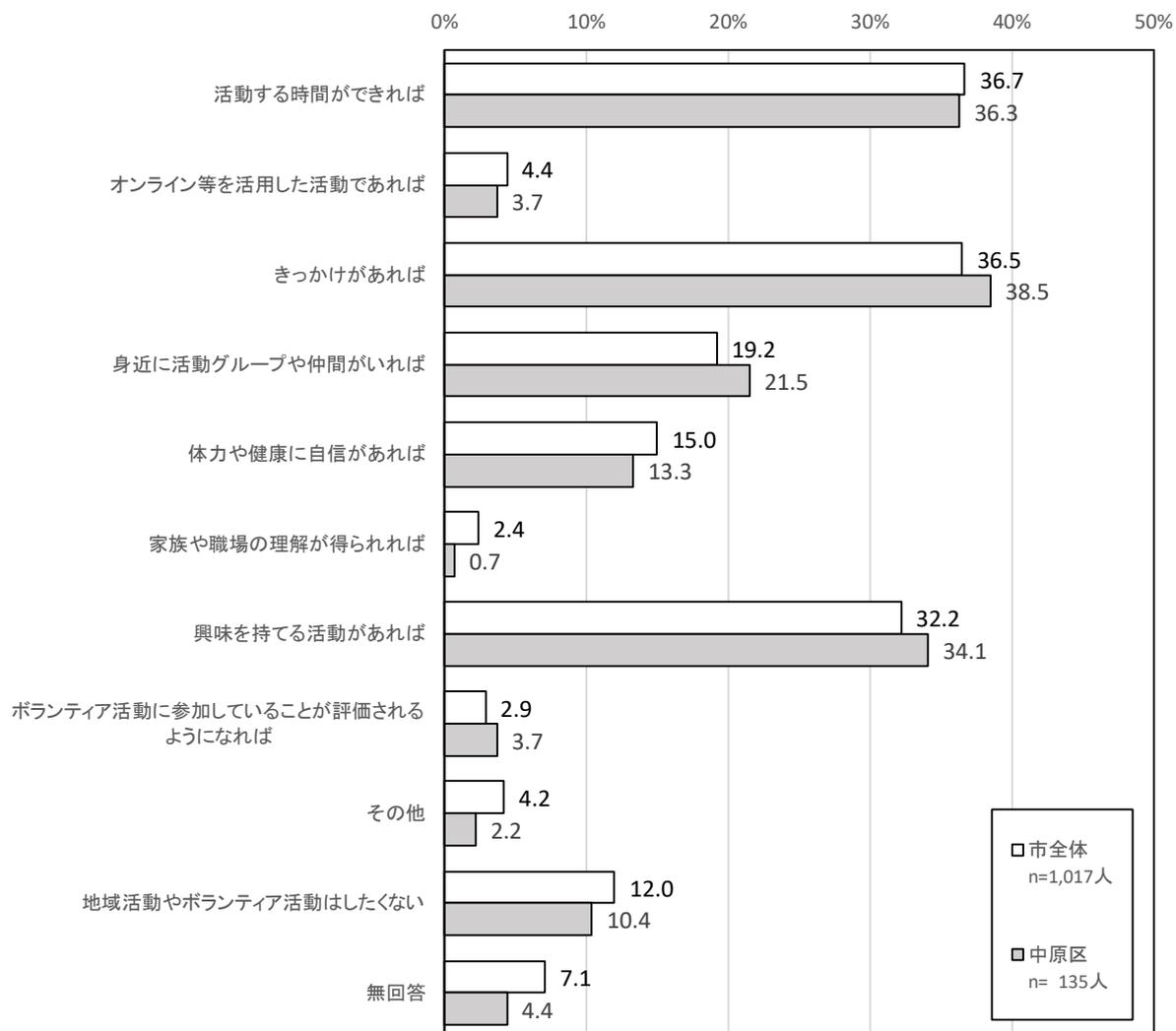


問 30-7 《問 30 で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

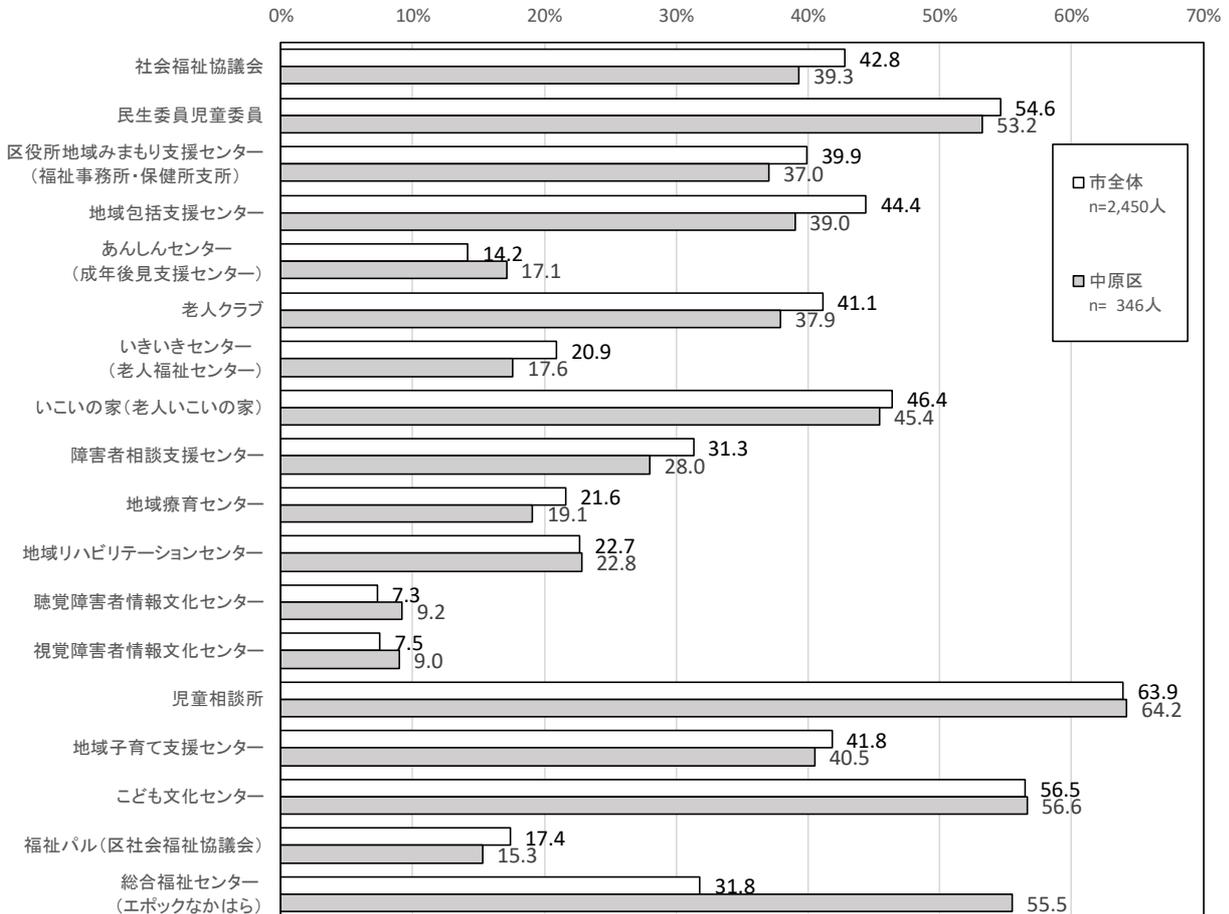
中原区では、「きっかけがあれば」の割合が 38.5%で最も高く、次いで「活動する時間ができれば」が 36.3%、「興味を持てる活動があれば」が 34.1%となっている。



5. 保健・福祉に関することについて

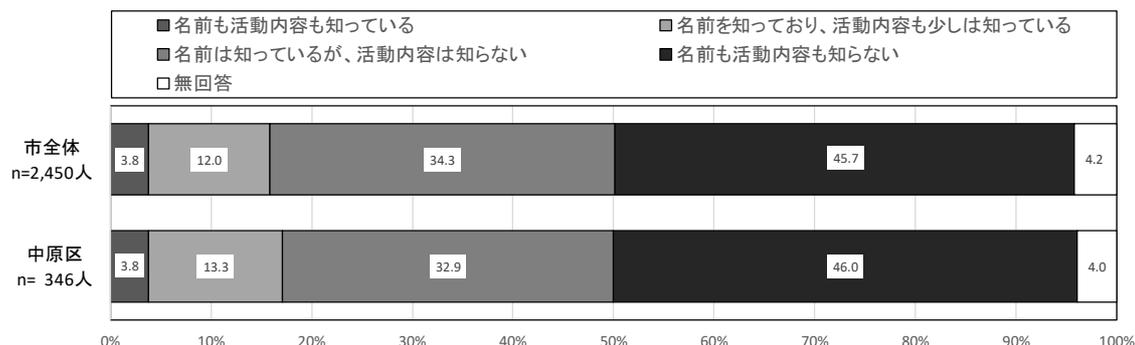
問 31 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。（○はそれぞれ1つだけ）

中原区では、「児童相談所」の割合が64.2%で最も高く、次いで「こども文化センター」(56.6%)、「総合福祉センター（エポックなかはら）」（55.5%）となっている。



問 32 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存知ですか。（○は1つだけ）

中原区では、「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」の合計が17.1%で、市全体（15.8%）を上回っている。

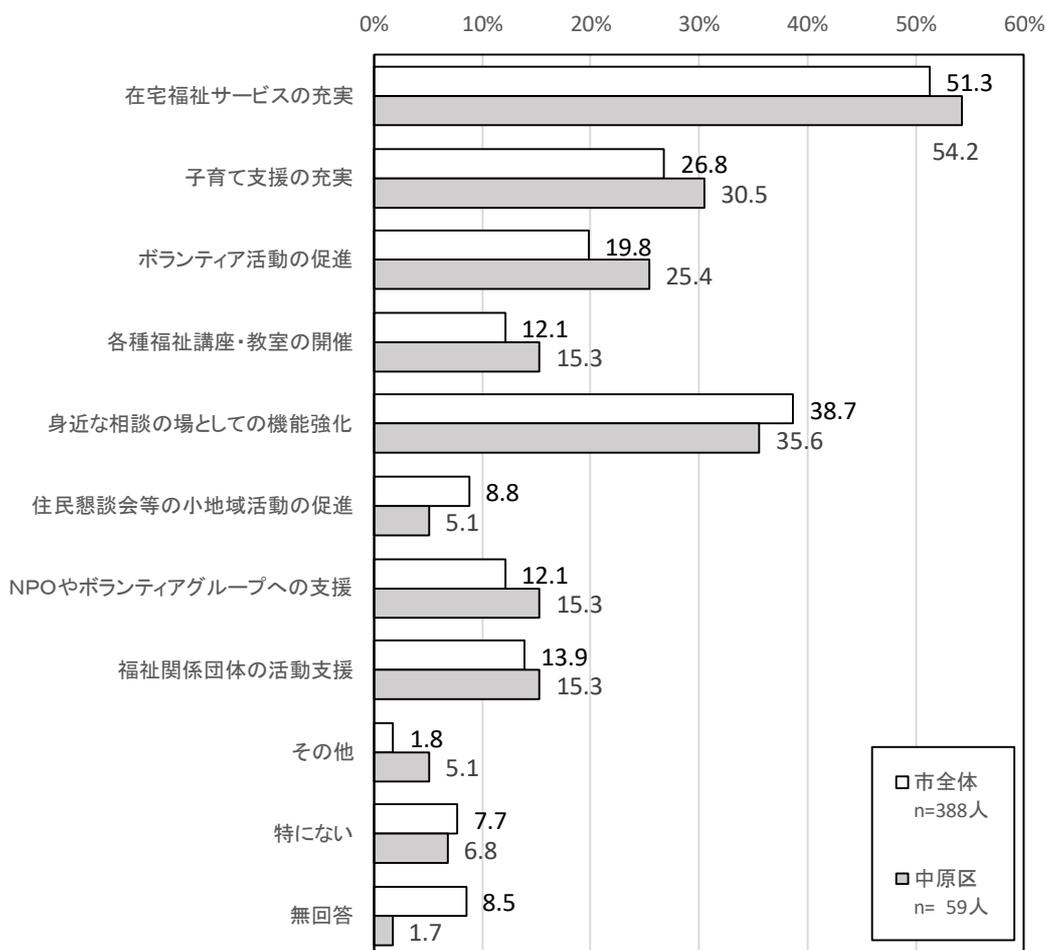


問 32-1 《問 32 で「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」にお答えの方》

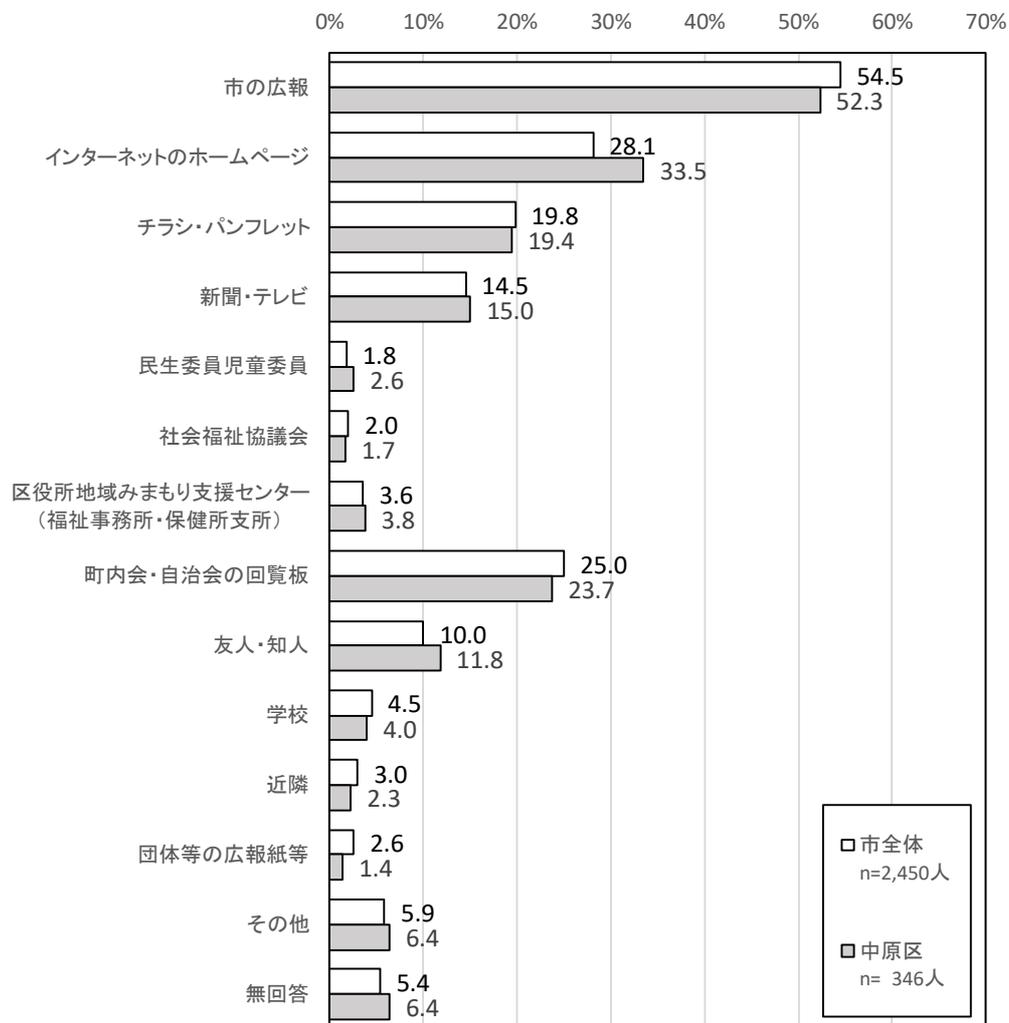
あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。

（○は3つまで）

中原区では、「在宅福祉サービスの充実」の割合が54.2%で最も高く、次いで「身近な相談の場としての機能強化」（35.6%）、「子育て支援の充実」（30.5%）となっている。



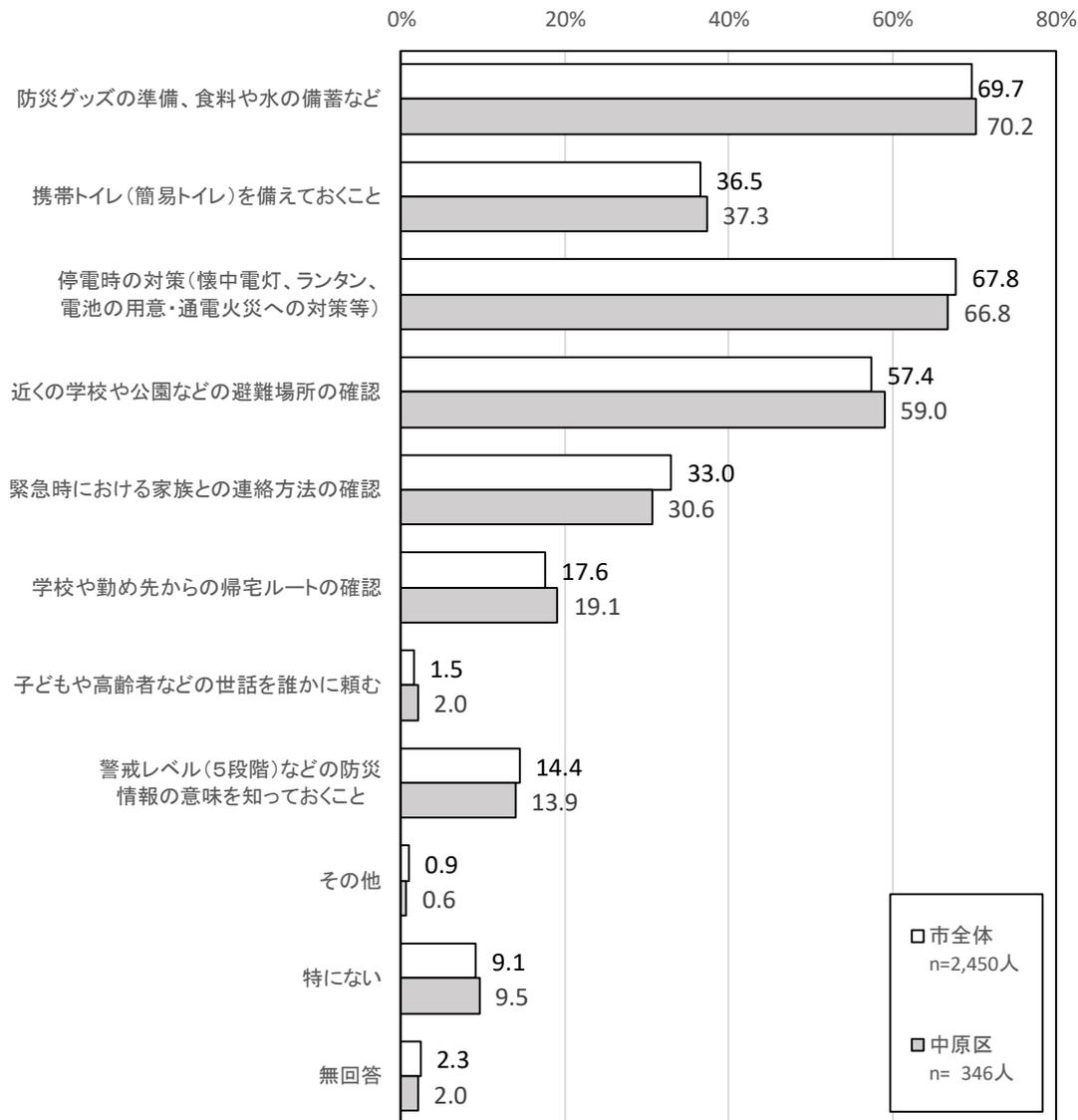
問 33 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)
 中原区では、「市の広報」の割合が52.3%で最も高く、次いで「インターネットのホームページ」
 (33.5%)、「町内会・自治会の回覧板」(23.7%)となっている。



6. 防災に対する意識と備えについて

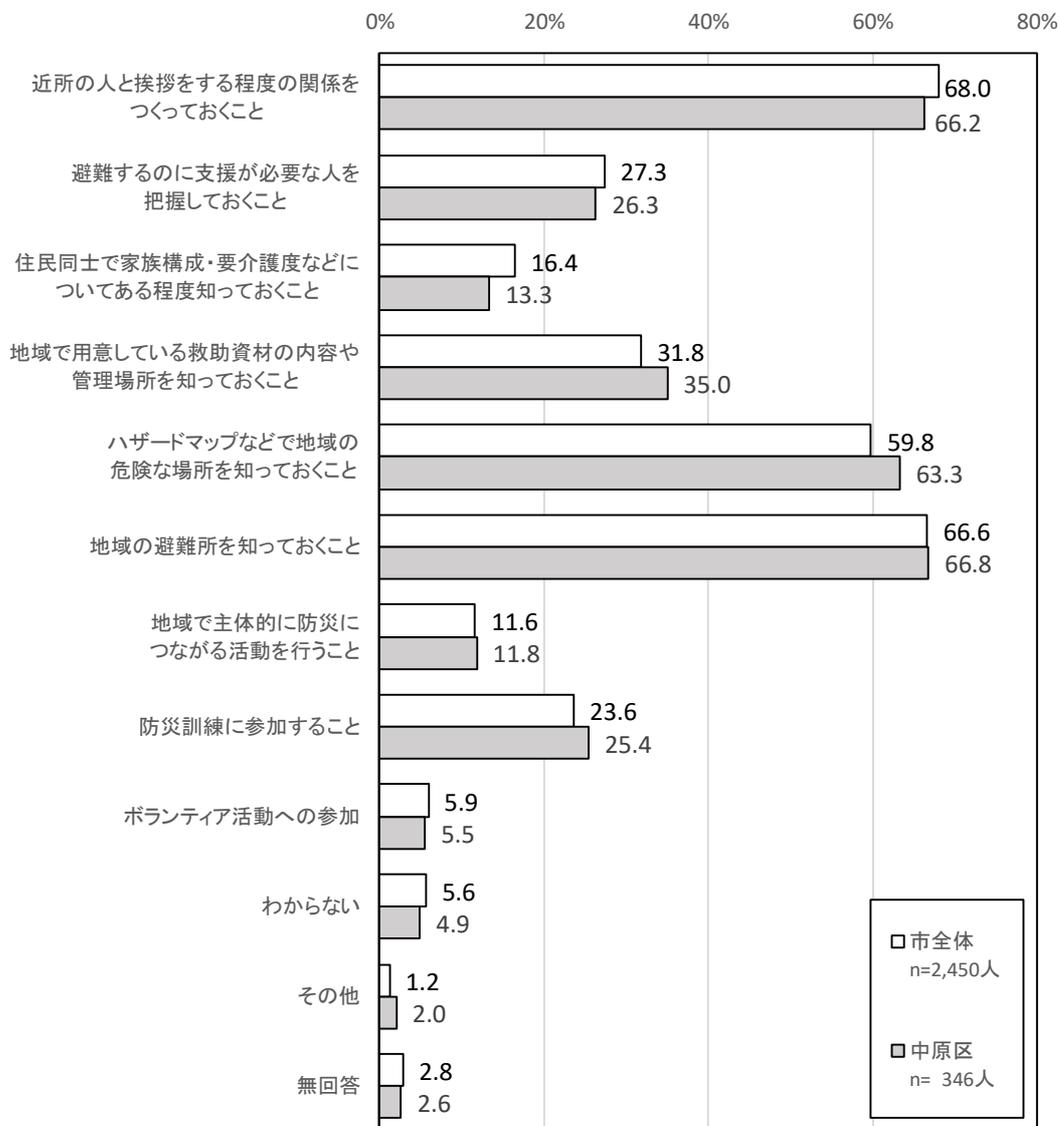
問 35 避難や救助が必要となる災害に備えて、あなたが防災に関して取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「防災グッズの準備、食料や水の備蓄など」の割合が70.2%で最も高く、次いで「停電時の対策（懐中電灯、ランタン、電池の用意・通電火災への対策等）」（66.8%）、「近くの学校や公園などの避難場所の確認」（59.0%）となっている。



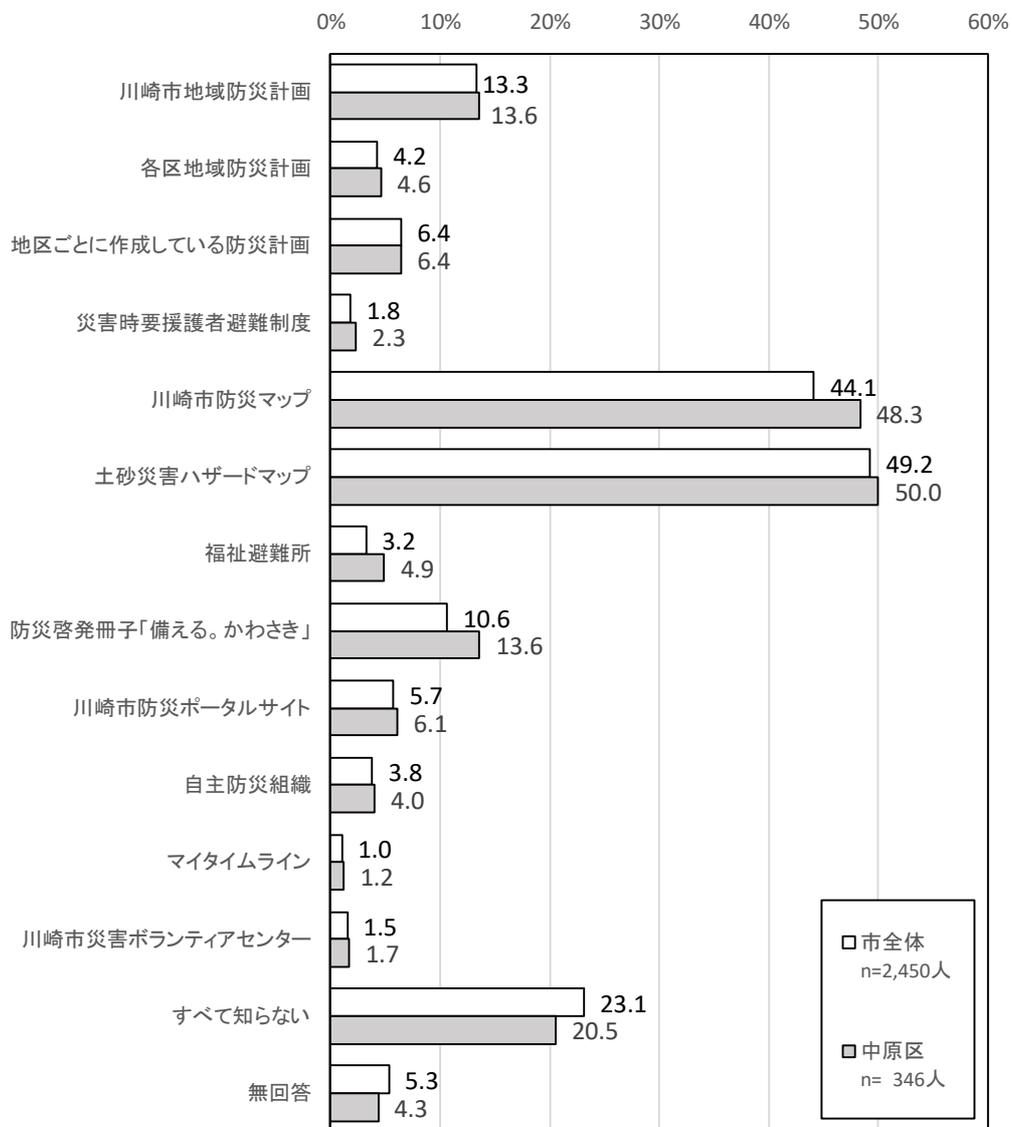
問 36 大規模な災害が発生すると、地域住民同士で助け合いが重要ですが、普段からどのような活動をする必要があると考えますか。（あてはまるものすべてに○）（新規設問）

中原区では、「地域の避難所を知っておくこと」の割合が66.8%で最も高く、次いで「近所の人と挨拶をする程度の関係をつくっておくこと」（66.2%）、「ハザードマップなどで地域の危険な場所を知っておくこと」（63.3%）となっている。



問 37 防災に関する次の取組のうち、ご存知のものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）
 （新規設問）

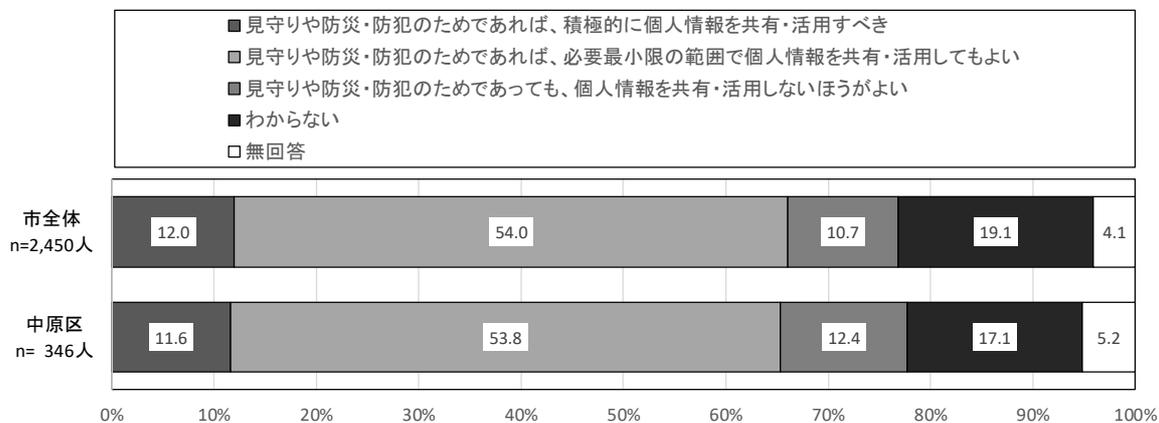
中原区では、「土砂災害ハザードマップ」の割合が50.0%で最も高く、次いで「川崎市防災マップ」（48.3%）、「すべて知らない」（20.5%）となっている。



問 38 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。

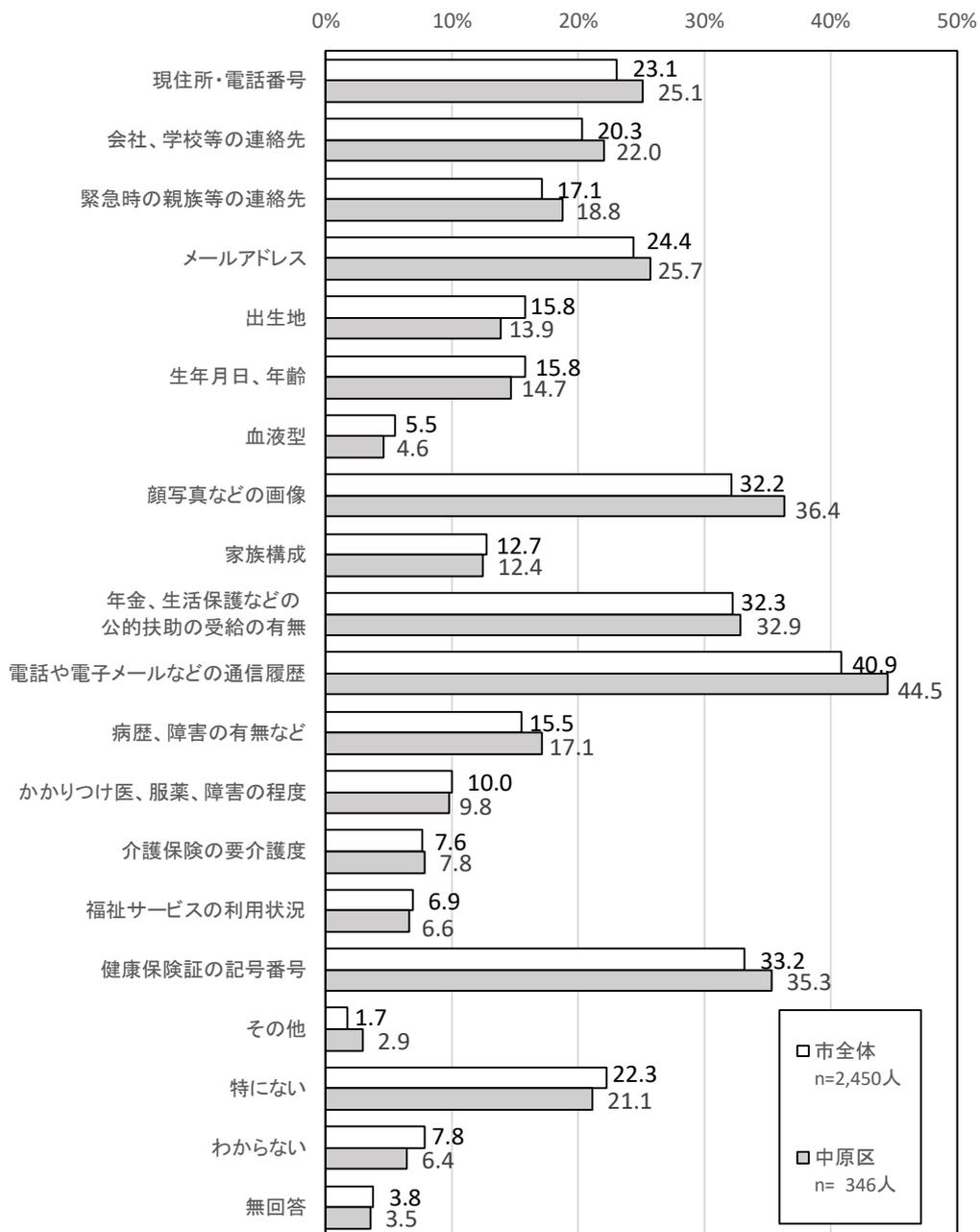
(○は1つだけ)

中原区では、「見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報を共有・活用すべき」、「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の合計が 65.4%となっている。



問 39 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたいくないものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が44.5%で最も高い。次いで「顔写真などの画像」（36.4%）、「健康保険証の記号番号」（35.3%）となっている。

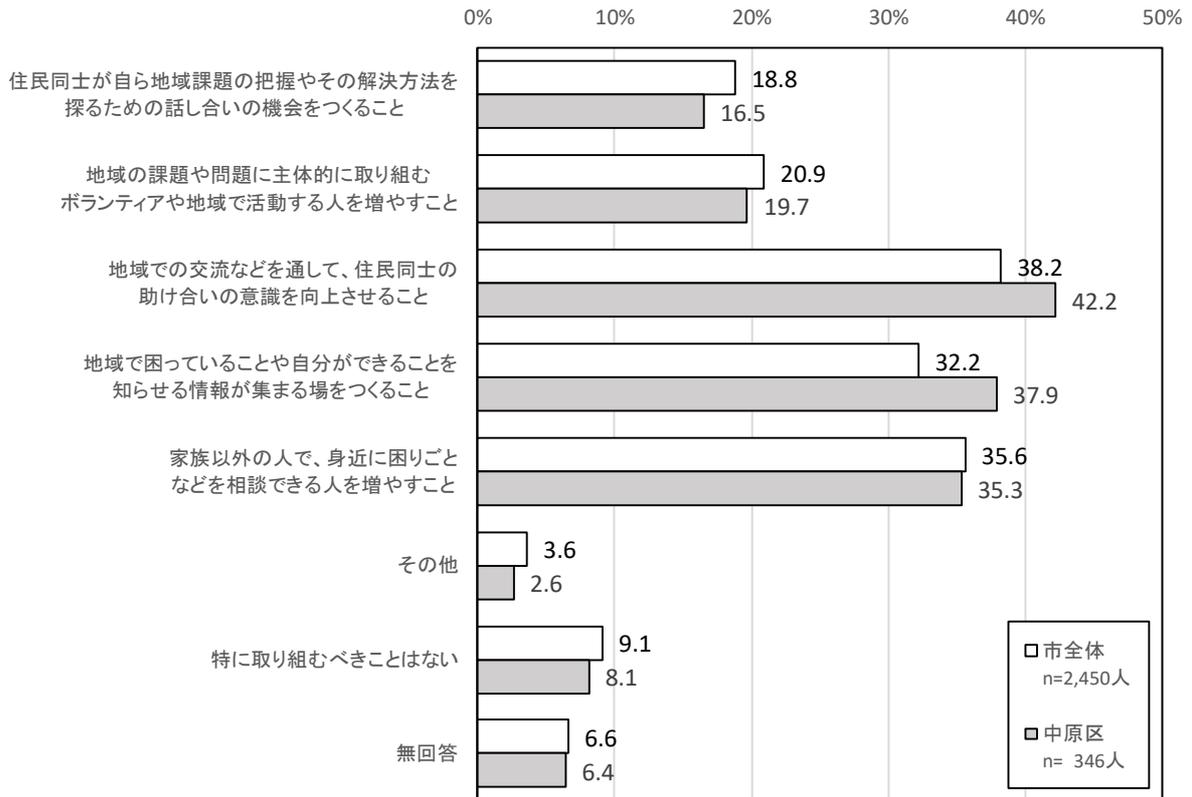


7. 今後の地域福祉の推進について

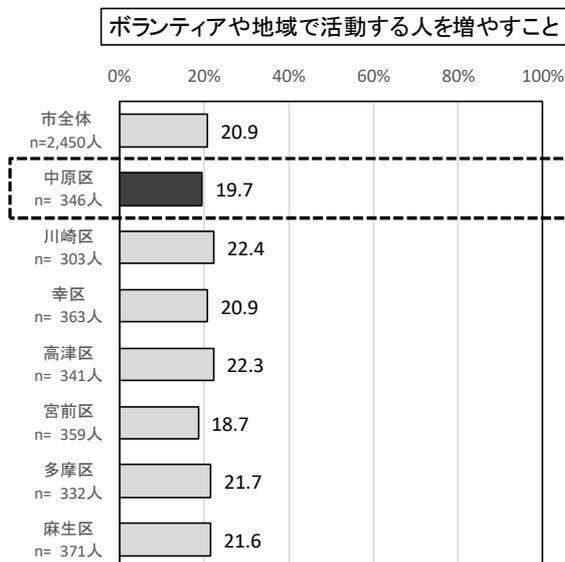
問 41 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」の割合が42.2%で最も高く、次いで「地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること」（37.9%）、「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」（35.3%）となっている。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する人を増やすこと」については、19.7%で2番目に低い。



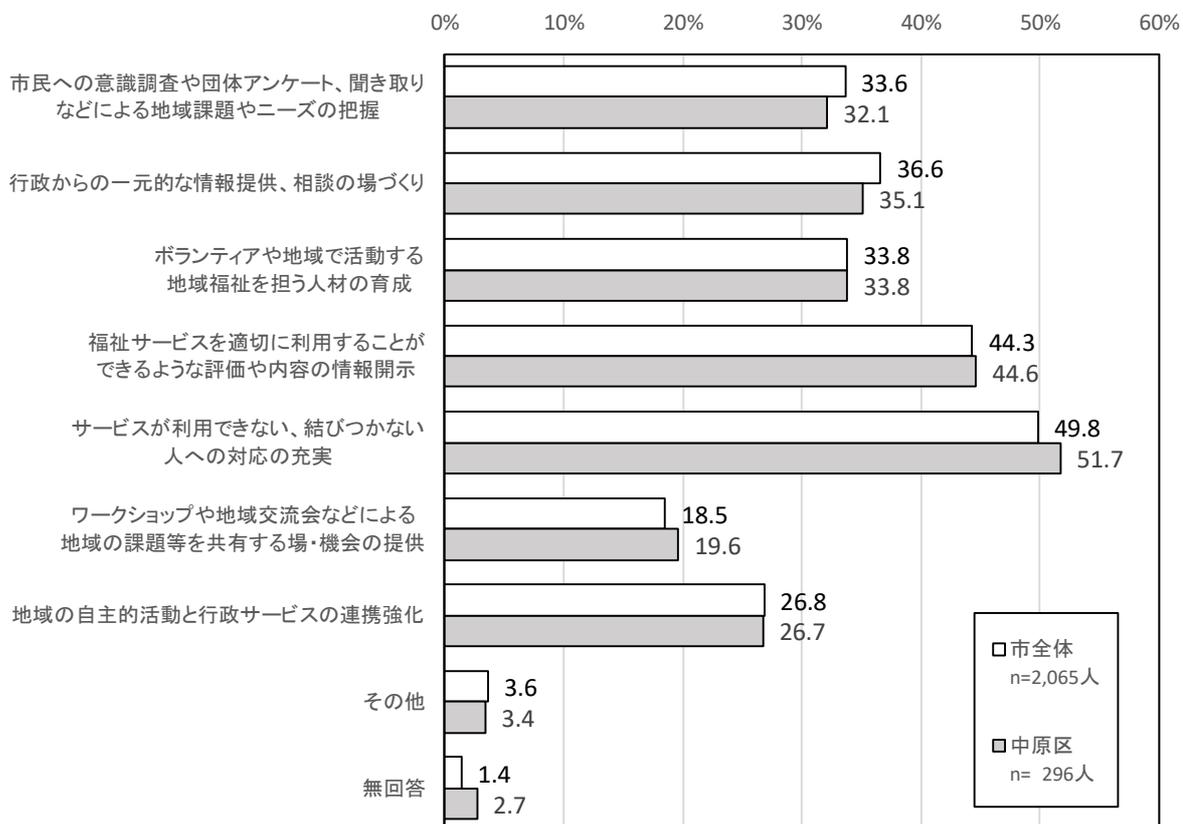
【参考】



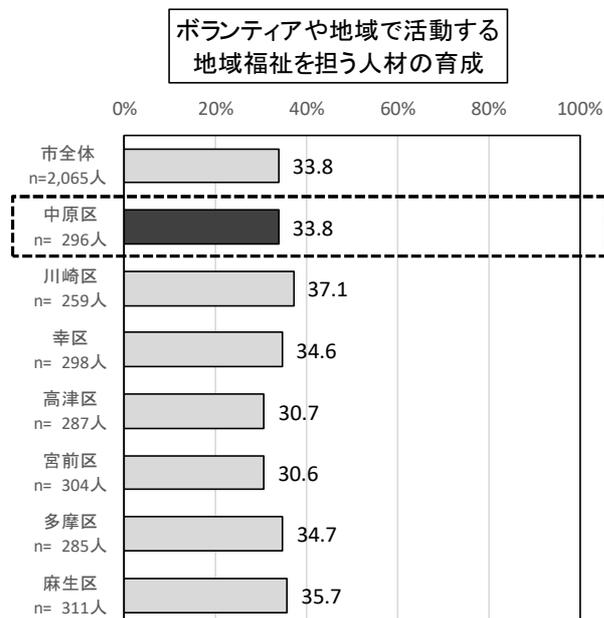
問 42 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」の割合が51.7%で最も高く、次いで「福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示」（44.6%）、「行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり」（35.1%）となっている。

市内6区と比較すると、ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成については、33.8%と3番目に低い。



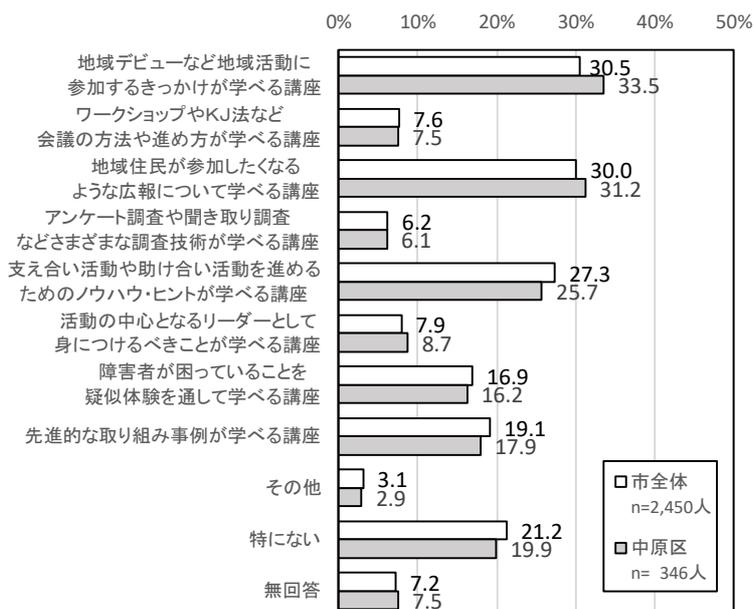
【参考】



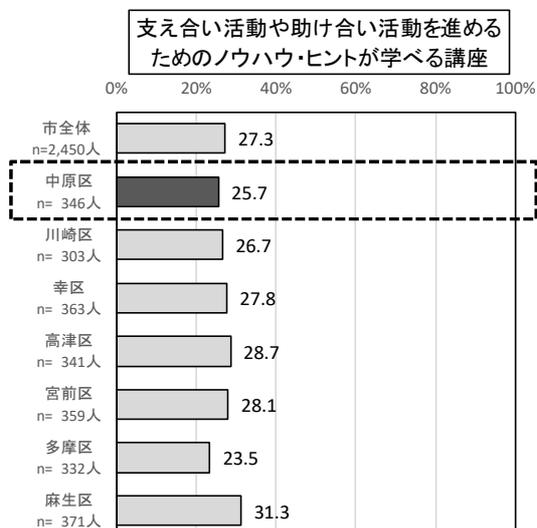
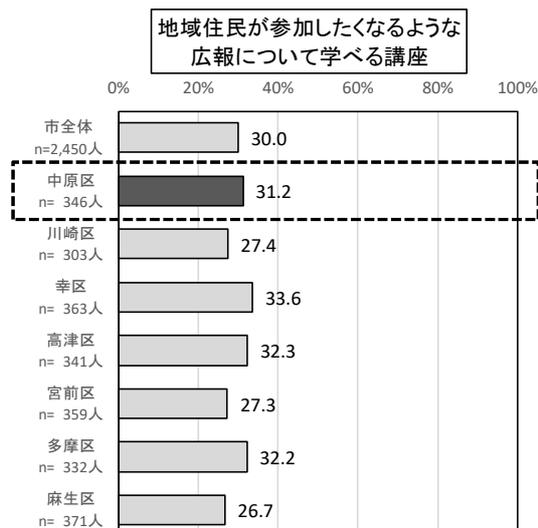
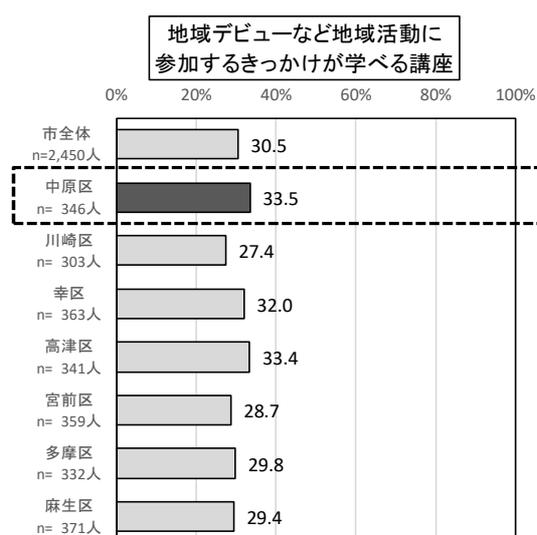
問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

中原区では、「地域住民が参加し
たくなるような広報について学べる
講座」が31.2%で市全体（30.0%）
を上回っている。

市内6区と比較すると、「地域デ
ビューなど地域活動に参加するき
っかけが学べる講座」は33.5%と最も
高くなっている。また、「地域住民
が参加したくなるような広報につ
いて学べる講座」は31.2%と4番目に
高い。一方、「支え合い活動や助け
合い活動を進めるためのノウハウ・
ヒントが学べる講座」は25.7%と2
番目に低くなっている。

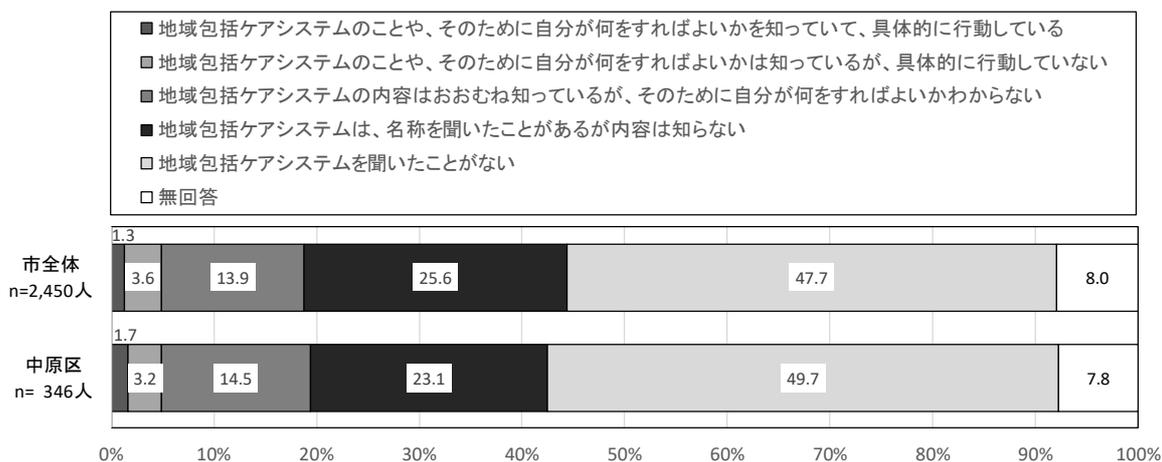


【参考】



問 44 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。
 (〇は1つだけ)

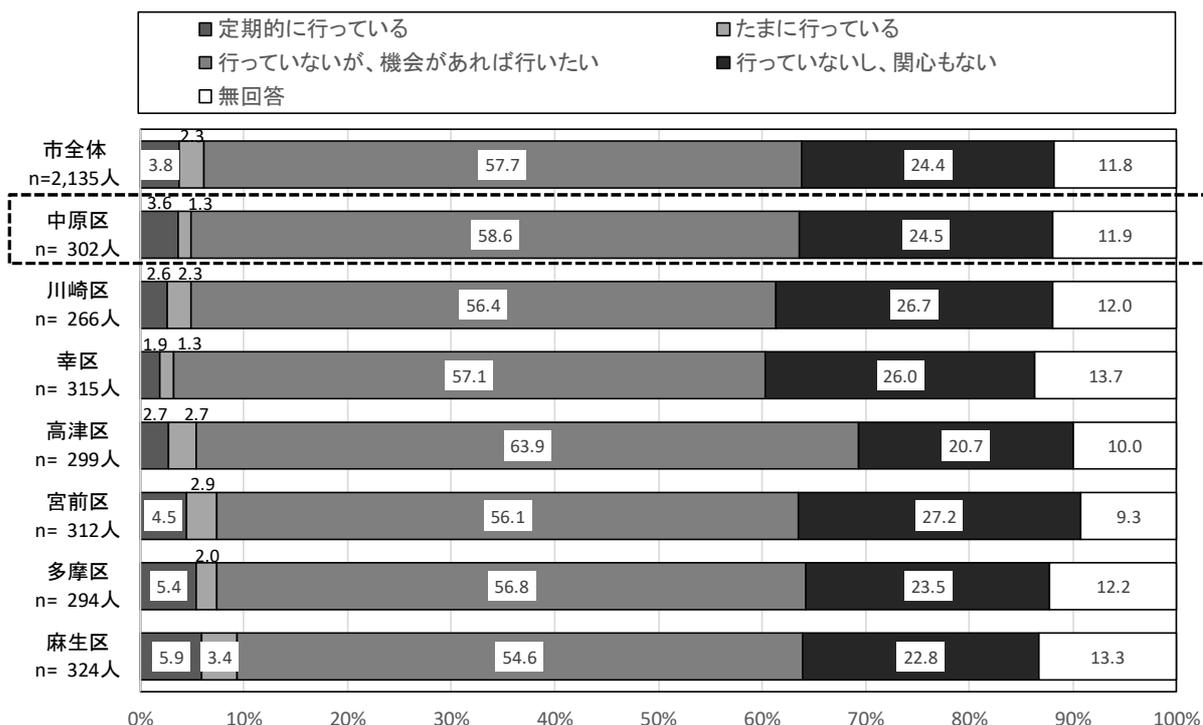
中原区では、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が49.7%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(23.1%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」(14.5%)となっている。



問 44-1 《問 45 で「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」にお答えの方》

地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。このような行動を行っていますか。(○は1つだけ)

中原区では、「定期的に行っている」、「たまに行っている」の割合の合計が 4.9%で市全体(6.1%)を下回っている。市内6区と比較すると、「定期的に行っている」の割合は 3.6%で、4 番目に高い。また、「行っていないし、関心もない」の割合は 24.5%で 4 番目に高くなっている。



8. 自由回答のまとめ ※再掲を含みます

(1) 地域で問題になっていること

地域で問題になっていることとしてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 地域で問題になっていること

意見の内容	件数
1. 子どもに関する問題	17
2. 地域防犯・防災に関する問題	17
3. 高齢者に関する問題	18
4. 地域のつながりに関する問題	20
5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題	5
6. 障害児・者に関する問題	3
7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題	0
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題	5
9. 健康づくりに関する問題	3
10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題	0
11. その他	4

1. 子どもに関する問題（17件）

中原区

	内容
1	保育園が休園の際、預け先がなく困ることが多い。
2	子どもが遊べる公園等が少ない。（3件）
3	コロナ禍に引っ越してきたこともあり、子育てイベントなど少なく孤独を感じることもある。実家が離れていることもあり、中原区のサービスを利用しようとしたが条件が合わず、更に孤立を感じた。共働きで子育てする大変さを実感している。
4	子どもの遊び場 他自治体に行くと、とても広く綺麗で、遊具の充実した明るい広園が整備されていてうらやましいと感じる。
5	保育園に通っているが、近隣からの苦情で外で遊べない。近隣の方が子どもの声が騒音と捉えていることが問題。
6	昔と違い、公園でボール遊びができないなど、子どもたちが遊ぶ場所がない。ボール遊びは一体どこでできるのか……。公園を見渡してもゲームしたり（座って）おかし食べたりしていて、子どもらしい遊びができていないように感じる。そのため、施設で、かくれんぼなどしているように思える。
7	子どもたちの遊び場が少ない上に、うるさいなど苦情がきたりする。子持ちの人にとって居心地が悪い。
8	遊んでいたらどなられる。公園でタバコを吸っている。
9	子育て支援が十分でない。子どもや妊婦の医療費が高いと思う。無料にしてほしい。
10	子どもの医療費が1歳から発生する。道路が狭かったり、舗装がされていない所があり、子どもにとって危ない。地域イベントの情報が入ってこない（お祭りやフリーマーケット etc…）。
11	子どもだけで行けるプールがほしい。

	内容
12	ボール遊びなど広いスペースがなく、家でゲームばかりするしかなくなる。公園は小さい子どもが遊ぶ為、サッカー、野球等をする場所がない、広い広場を確保してほしい。お金を出して習い事をさせる方法しかないのはおかしい。
13	子どもの躰がなっていない家庭が多いと感じている。小学校の指導もなっていないと感じている。
14	子どもの遊ぶ場が少ない。公園使用で高齢者⇄幼い子の親、相互理解が足りていない→クレームとなる。
15	マンションのため、家庭内でおきている虐待を発見しにくい状況である。周りが虐待していると言っても親は認めず、児童が犠牲になっている。虐待には、身体的虐待ばかり重視されているが、心理的虐待もある事を忘れてほしい。児童への聞きとり調査をしてほしい。

2. 地域防犯・防災に関する問題（17件）

中原区

	内容
1	災害時のペットの避難場所が不安（十分な対策が取られていない）（環境がペットに適していない）。子ども・高齢者がいないと、町内会費を払う必要がないように感じている。
2	ひとり親で現在3才の子どもとふたりで住んでいるので防犯面は少々不安になるところがある。
3	ブレーメン通り商店街の自転車マナーが悪すぎる！
4	工場跡地の用途問題。交通量が増えることが懸念。危険が増える。
5	中原街道を自転車通勤している人がものすごいスピードで走っている。
6	子どもの通学路に信号のない横断歩道があります。ボランティアの方が見守り（当番でPTAも）してくれてますが、歩行者がいるのに止まらない、スピードを落とさない車をよく見ます（自転車も）。とても危険なのでパトロールを強化してほしいです。
7	日が暮れてからも小学生の子どもが公園にいる。おかしのごみなどが散らばっている。
8	「屋根が壊れているので修理させて欲しい」等虚偽の情報を伝えて不安をあおる悪質リフォーム業者の訪問を受けた事が複数回ある。近隣の友人・知人には注意を喚起しているが、行政のどの窓口にも連絡すれば良いのかわからない。具体的な被害がない場合警察には連絡しづらい。
9	小学校通学路に危険と思われる所がある。
10	水害のリスクがある場所なので、防災訓練。（2件）
11	夜暗く人通りが少ないため、子ども一人で歩かせられない。浮浪者が多い。
12	道路（歩道）が細くて危ない（府中街道）。
13	災害時の共同対応、避難所での協力が必要になる。その備えのために交流は最小単位でも良いので必要と考える。
14	マンションの管理人の人が自転車のカゴのバックをバイクの人にひったくられたことをきいたので。
15	人が増えすぎて道が歩きにくいのによけてもらえない（自分はよけられない）。歩きスマホで直前までよけてもらえない。歩行者天国でも自転車がたくさん走っていてあぶなくて困る。
16	地域の防災計画の作成、防災訓練の実施。町内の夜警、見回り。

3. 高齢者に関する問題（18件）

中原区

	内容
1	これから高齢者がもっと増えていくので、若い人たちの負担が心配。
2	高齢化住宅で、話しが合わない。
3	高齢者世帯が多いので、何かあった時のことを考えると不安を感じる。
4	老老介護の方を見かける。車イスを、高齢者が高齢者を乗せて押し歩いている。介護者の負担が大きいと思う。高齢者など、ネット環境が無い方は、情報不足だと感じる。
5	高齢の方が周囲には多くなり、一人または夫婦で住んでいるので、災害の時や急な体調不良があった場合、どうしているのか気になる。
6	高齢化問題について若い世代と一緒に考えていった方が良い。高齢世帯の金銭面でのある程度の負担について考えた方が良い（保険料・医療費負担・年金減額等）。どの世代にも平等に痛み分けが必要。
7	地域の商店街（個人店）の衰退などで、高齢者など買い物が近所でできない、しづらい。
8	高齢者の孤独死（3件）。60代以上の人にも対応できるシステムが必要。
9	高齢者中心のレクリエーションが少ない。
10	一人暮らしの老人が粗大ごみをだすことが出来なくて、ちょっと手伝いをした。
11	一人暮らしの高齢者で地域とのつながりが希薄な人がいるが、その方の性格ではなく、老化によって活動が鈍り行動範囲が狭くなる原因である。どのようにケアすべきか、課題に該当する。
12	高齢の父が外出先より帰宅できなかった事が2回あった。
13	元気な高齢者の活躍の場がない気がします。（コロナも原因？）お金をいただいて働く勇氣はないけれど何か人の役に立ちたいと考えている高齢者に私もきつとなりそうです。
14	最近経済的に困窮（生活保護をうけられず）している一人暮らしの方が、風呂場で亡くなっているのが発見された。2019、台風による水害が近所であった。
15	高齢者への対応の方法（具体的な連絡、支援等の内容について）。子どもの居場所について（中・高生）。
16	訪問医、ケアマネジャーと契約している。健康、介護に関しては万全にしている。

4. 地域のつながりに関する問題（20件）

中原区

	内容
1	近所付き合いがほとんどない。まつりなども行えなくなり、いままで以上に希薄になった。バスなどが通らなく、買い物できる場所まで遠いので高齢者にはキツそう。
2	住んでいるマンションでは交流会などをやっているが、すべてを把握できてはいないと思う。
3	町内会の理事会で、町内会は活動していないと思われていると、話題になった。町内会に入らない方が増えている。
4	町会活動の役員や班長、組長の担い手が少ないと感じる。
5	もともとは自治会での活動も多く、つながりが比較的強いエリアのように思いますが、コロナを契機として、子どもを通じた近隣の方とのコミュニケーションが減り、私自身も気軽に話せるママさんなどが減ってしまいました。
6	交流がむずかしい。

	内容
7	仕事がフルリモートのため、まったく話さない日が長期間ある。話すスキルが低下している。
8	身近な問題ではないが、生活自体を支配され子を餓死させた親があるように、つきあいにも一定の距離は必要で、「希薄」を強調すると、人を支配したがる一定数の人種にとってそれがお墨付きとなって不要な町会、PTA等の活動を強要してくることにつながると思う。
9	同じ通りの人は知っているが、それ以外の方たちのことはほとんど知らない。
10	交流したいのに名前もわからない状態です。団地内の集合ポストに名前札入れている人がほとんどいない。
11	ご近所付き合いが少ない。
12	町内会の活動等は、ご高齢の方が多くなり、今まで通りの規定ではやりづらい。
13	交流が面倒だと思っている。
14	町会理事会の場所が離れている→参加者の減少。いずれにおいても活動においての参加者、担い手の減少、地域活動を享受されることはサービスと考える風潮。
15	コロナ等でお祭り、火の用心等のイベントが開催できず、コミュニケーション不足になっている。
16	町内会で敬老会への援助、敬老のお祝い、子ども育成会（ドッジボール、少年野球）への応援、補助。
17	集合住宅（マンション）が増えてから、なかなか町内にとけこんでこない。
18	年齢的に助け合いをする事は不可能。集合住宅に住んでいますが、出来るだけ迷惑掛けない様心掛けしています。
19	近所との付き合いはなく、何かのときに助け合うために近所は大事だと思うが今のところ近所の人とのあいさつでもあたま下げても返事なし。
20	町内会の役員として活動しているが町内会には関心がない、「近所」には関心がない。他人には関心がないと感じています。

5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題（5件）

中原区

	内容
1	情報が多くて、なにが最新情報なのか不明。
2	例えば、コロナ後の手続きにしても、区、県、市で、すべて情報が違ったり、電話して聞いても人によって言う事が違った。分かりやすくまとめてほしい。
3	不在が多く、仕事以外の情報源が全くない。
4	曜日ごとの分別種を守らない人がいる。
5	私には子どもがいません。だから若い人との交流が皆無です。何ヶ月で90才になります。若い人の情報が少しほしいと思っています。小学生・中学生の子ども達がしゃべっていることがわかりづらいのです。

6. 障害児・者に関する問題（3件）

中原区

	内容
1	自分自身が障害者であるが、障害者同士が交流できる場がない（分からない）と感じている。自身の不安がそういった場があるなら解決しやすいのではないか。私は障害者の現実などを広めたいと考えているが、子どものころから教育ができればイジメなども減るのではないかと思っている。
2	子どもが障害者で、親が年もとって体が動けなくなって、将来が心配。
3	障害者の自立支援（職場・給与面、住居等）。

7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題（0件）

8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題（5件）

中原区

	内容
1	生徒が学校で相談相手がいなかったりなどで、精神的な病を持ってしまうことがある。
2	学校時代に会って来た友人たちが会えない日々のさびしさ。
3	コロナの後遺症もある為、今後の事も未来も全てが不安。
4	まれに、子どもが泣きさげぶ声が聞こえる。親御さんの精神状態が不安定なのでは？
5	マンション内には60人以上の高齢者、障害者がいて近ごろは子どもも増えてきて、不審者が出たり。

9. 健康づくりに関する問題（3件）

中原区

	内容
1	誰でもいつでも運動できる場所、施設等有れば運動習慣がつくと思うし、ストレス発散になる。いちいち予約したり面倒な手続きがあると億劫になる。
2	単身の高齢者の健康問題（一般的に）。
3	コロナのワクチンを1回も打たない人がいて不安である。

10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題（0件）

11. その他（4件）

中原区

	内容
1	このご時世、どんな時に何があるか分からないから、いつでも対応出来ることがあればいい。
2	「地域のネコをどうすべきか」
3	近くにコンビニはあるがスーパーがない。
4	今度、倉庫ができて、交通量が増える。元住吉に行くバスが少ない。

(2) 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由としてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

意見の内容	件数
1. 自分自身や子どものため	14
2. 地域交流のため	16
3. 社会貢献	11
4. 健康維持	8
5. 時間に余裕があるから	2
6. 身近で関心・興味がある	5
7. 仕事をしていた或いは資格があるから	4
8. 街の美化のため	4
9. 時間に余裕がなく、できない	1
10. 病気・高齢だからできない	4
11. 参加する気はあるが方法がわからない	3
12. その他	11

1. 自分自身や子供のため（14件）

中原区

	内容
1	さびしいですから。
2	自分の子どもに関係するものなら参加したい。その他は夫婦ともフルタイムなので時間的にさびしい。
3	今後の自分自身のためになると思うから。
4	リフレッシュになるから。
5	ボケ防止のため。
6	自分ができる事は、限られている為。
7	地域活動、ボランティアへの取組は、住民一人一人が参加する意識が大切であり、「楽しみながら活動する」ことが前提である。意識改革につながることに期待したい。
8	自分自身ももうすぐ支援される立場になりそうなので。支援できる立場の現在ならその立場が理解できそうなので。
9	今は健康なので、町内会などのイベントをお手伝いしたいし、自分の為にもなる。
10	子どもがいるので子どもと一緒に参加できるものが良い。(2件)
11	認知症になりたくないから。
12	子育て中だし子どもが好きなので。
13	楽しいから。

2. 地域交流のため（16件）

中原区

	内容
1	地域を盛り上げたい。
2	子育てのための情報交換や、子どもの友人づくりのきっかけになるなら参加したい。
3	小学生就学前の子どもがいるので、子ども達と一緒に参加し地域活動等を教えたい。
4	地域のもりあがりが必要だと思う。外に出る機会を作り、人が集まり、交流する事も大事だと思う。
5	地域でも友人と言えるような方を増やしたいので。
6	子育ての中で関わる機会がありそうなので。
7	自分の苦手な事や嫌いな事ではなく楽しめる事に時間を使い人間関係を程良い距離で広げていけるならとても有意義な事だから。
8	近隣で顔見知りになり、防犯に役立てる。
9	人とかかわるきっかけを作る為。
10	地域に住んでいる限り、町内会の活動は義務だと思っている。
11	趣味を共有出来たら良いと思う。
12	町内会の活動を行うことで近所のコミュニケーションを高めていきたいため。
13	高齢者が多くなる町、その中に新しく若い層が居住してきています。年齢層の幅をこえて、町のコミュニケーションを取る必要がある。空家が増え、防犯上もよくないし又、空家はだれも入れないので荒れているし、草、木ものびほうだい！
14	毎年、お祭りのお手伝いをしている。豚汁を作ったり、妻が料理をふるまっている。町内の方々が、美味しいと言ってくれるから続けている。
15	地域社会生活に必要なものと考えるが、担い手不足を痛感しているので、自分としてはもうしばらく元気なうちはできることをしていきたい。
16	スキルを活かした活動場所があれば、地域との交流も深まり、住民との関係も良くなると考える。

3. 社会貢献（11件）

中原区

	内容
1	子どもたちや困っている保護者、地域の方の力になりたい。
2	地域に住む子ども達のために役に立ちたいから。
3	安全＝安心。子育ても、障害児も、高齢者でも安全、安心にらせる事。その地域に住む人達にとって“安全活動”をするのであれば地域住民として意味があるため。
4	人の役に立ちたい（2件）。楽しむため。
5	近所がきれいなのは気持ちが良いし防犯にもなるから⑩。子育ての経験があるので多少は役に立てそうだから④⑥。運動会の自転車置き場の係などは出来そう⑫。
6	役員をやっている間は、活動しなければいけないと思います。いずれは自分たちも助けて頂く事になるので。
7	高齢化や少子化が進み、必要な活動と思うので。
8	20年以上続けて取り組んでいるので必要とされるまで続けていければと思います。
9	安全で住みやすい街にしたいから。（2件）

4. 健康維持（8件）

中原区

	内容
1	将来の健康のため。自分の出来ることで役に立ちたいから。
2	これからの高齢化社会に備えて、健康寿命を延ばすことが必要だと思うため。
3	健康と地球は大事だから。
4	健康寿命を延ばしたいので。年齢と共に地域との関わりを深めていきたい。
5	自らの健康のため。人と触れ合うことで自分の存在確認。
6	転倒予防の健康づくりに参加した。
7	いつまでも健康でいたいから。町内会で楽しく、つきあっていきたいから。
8	健康で体力に自信がある。

5. 時間に余裕があるから（2件）

中原区

	内容
1	不定期だが、自分の空いた時間に活動できそうなことで協力したい。
2	短時間でおわるため拘束時間が短いため。

6. 身近で関心・興味がある（5件）

中原区

	内容
1	楽しそうだから。
2	自分の関心が高い項目なので。オンラインだと仕事をしていても時間を作りやすいので。
3	自分の特技や興味のあることから始めるのがよいと思うため。今までにボランティア等の経験がほとんどないため。
4	今も継続しているので。
5	自分が得意とすることをやった方がいいと思うから。

7. 仕事をしてきた或いは資格があるから（4件）

中原区

	内容
1	高齢者施設で勤務しているのでスキルが生かせそうだから。
2	教養のための樹木・植物学、英会話などを教えることができる。
3	仕事（介護職）を通して、あまりにも孤立やアクションや情報が得られず悩んでいる方が多いことか！！と実感したから。
4	過去海外との文化芸術の交流事業に従事していたため、最も自然体で参加できる活動であるため。

8. 街の美化のため（4件）

中原区

	内容
1	子ども達には綺麗な環境で育ってほしいから。
2	仕事に結びつくから。地域美化のために役に立ちたいから。
3	週2～3回の歩道掃除（家の周り）趣味の延長として。
4	環境美化にする事でポイ捨てが少しでも無くなりマナーの向上になると思う為。

9. 時間に余裕がなく、できない（1件）

中原区

	内容
1	仕事、家事、育児で忙しく、時間がない。

10. 病気・高齢だからできない（4件）

中原区

	内容
1	体が不自由なため。
2	脳と足と腰が思うようにならず自分の行動の事を考えますと、人様の事は考える事がむずかしいです。
3	高齢の為、進んで参加する気になれない。日常生活で一日が終わる（家事等）。
4	参加は新たには押えたい。次の世代が参加できるような仕組みづくりに活動したい（自分が高齢のため）。

11. 参加する気はあるが方法がわからない（3件）

中原区

	内容
1	時間と予定が合えば。（2件）
2	私に出来ることなら何でも参加したいがそれがどんなことかわかりません。

12. その他（11件）

中原区

	内容
1	無償で働き手になるのは嫌。
2	特に参加するつもりがない。
3	今はやりたくない。
4	障害児・者が地域で暮らしやすい環境を整備しなければならないと思う。
5	老人ばかりで楽しくない。耳の遠い人とか、同じ事何度も話す事めんどくさい。
6	私は民生委員、児童委員を25年務めました。現在は小学生の登校時7:30～8:30分まで見守り活動をしています。
7	自分が今障害者。
8	今は自分のことは全て出来るし、あまりこういう活動には趣味がわかかなかったから。
9	あまり負担にならず、できることがあれば。
10	食べる事を楽しんでもらいたいから。
11	できることであれば、時間がゆるす範囲で。

(3) 『地域包括ケアシステム』の取組等に対する意見・要望

『地域包括ケアシステム』の取組等に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. システムや取組の周知が必要 (内容を知らない・わからない)	14
2. 市への意見・要望	10
3. 地域住民とのつながりについて	0
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組み	2
5. 今自分ができないことがない	2
6. 健康について	0
7. 取組の提案	6
8. 取組への期待について	3
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	0
11. 地域防犯・防災について	1
12. サービスや手続きについて	0
13. 医療について	0
14. その他	6

1. システムや取組の周知が必要（内容を知らない・わからない）（14件）

中原区

	年代	内容
1	30～34歳	内容をよく知らない。自分のような世代にも周知させる広報活動などが、もっと必要だと思う。
2	30～34歳	「地域包括ケアシステム」について、よく理解していないので、もっと小さい頃から理解できるように、興味を持ってもらえるように取組めればよいのかなと思いました。
3	35～39歳	取組自体も知らなかったが、若い世代が知らない事が問題かと。行政の認知させる意識も足りないのでは。
4	40～44歳	取組内容をもっと広く教えてほしい。
5	45～49歳	国民、地域の住民に知ってもらう為もっと広く活動するべきだと思う。一部の活動団体しか良く分かっていないと思います。役所の人達が思っている以上に住民は知らないです。それどころか分からない事だらけです。役所へ地域住民が相談しやすい様にもっと役所の人間がまずは努力すべきだと思う！！ボランティアと言えば良いと思うのは違うと思う。
6	45～49歳	どんな人をターゲットに活動しているのかわからない。
7	50～54歳	今回のアンケートで「地域包括ケアシステム」の重要性を認識しました。この取組について、さらに広く、多くの人考える機会が増えればよいと思います。電車等の交通機関に広告を掲載するなどをし、一般の認知度を上げるのが大事かと思います。
8	50～54歳	聞いたことなかった。

	年代	内容
9	50～54 歳	末端である住民一人一人に浸透していない。残念。
10	55～59 歳	私自身なにも知りません。他にも同様の人が居る筈です。半強制でも構わないので、説明会等を開いて参加するようにした方が良いと思います。
11	60～64 歳	提供される仕組みが広く周知されること。地域づくりの取組 - 住民（全て）（健康でできる人）が自分のこととして取り組むこと→与えられるだけの地域サービスではないことを知ってもらうことの重要性。
12	60～64 歳	この取組を知りませんでした。TV やインターネット広告、ダイレクトメール等での告知が必須だと思います。
13	60～64 歳	毎月届く、市や県のたよりにこの説明もあったのでしょうか。気が付いたことがなく今日に至ってます。これからはもっと気を付けて情報を得たいと思います。また、出来れば見出しなどに工夫していただいて、読みたくなるような情報にして欲しいと勝手ながら思います。
14	70～74 歳	地域包括ケアシステム等の事についてあまり知りませんでした。私のように知らない人も多いと思います。もう少しPRして下さい。

2. 市への意見・要望（10件）

中原区

	年代	内容
1	25～29 歳	このアンケートは人が集計するのか。すごい労力だと思う。ネットで回答、集計できるようにしては?? ボランティアは共働きが増える中で難しい。ボランティアではなく、バイトとして給与を出せるような形にしないと人は集まらない気がする。また、このアンケートの回答の導線や、設問の内容が分かりづらい。時間をかけたが、その分かりづらさで有効な回答ができない人多そうでもったいない。
2	30～34 歳	福祉サービスはじめ、病院のサービスレベル、質、口コミをまとめたサイトがあると嬉しい。同居人に要介護者や子どもがいない人に対して自分事化させる取組が必要だと思う。
3	35～39 歳	子育て支援もお願いします。
4	40～44 歳	こちらの意識調査も取組の一貫としての意見となりますが、これだけ、ネットが普及している中で、紙のみの回答受付は改善すべき所かと思えます。これだけの紙を作成し、郵送し返送分の代金にかかる金額と人件費を考えると、その分、別の事にまわせるお金がこういう物に使われているのかという気持ちになります。行政もある種サービスを提供している所があるので、財源の有効的な活用をして欲しいと思います。
5	40～44 歳	高齢人材は、守る保護されるだけの存在ではないと思う。地域で生きる「資源」でもある。本人の社会参加を促す為にも、高齢者を活かす取組をして欲しい。
6	45～49 歳	超高齢社会は若年層の割合が少ないために起きているものと考えます。川崎市としては出産、育児に徹底的に取り組んで頂きたい。その上でそれ以外の範囲をボランティアで補うべきと考える。
7	45～49 歳	土日祝祭日に気軽にメールでやり取り出来る環境を整備して欲しい。土日祝祭日に気軽に家人と一緒に相談出来る環境を整備して欲しい。土日祝祭日が無理なら、夜間や深夜に相談出来る様になると良い（早朝でも）。

	年代	内容
8	50～54 歳	福祉保健の団体がたくさんある事におどろいた。元気な年寄りを上手に活動してもらう方法はないか。
9	60～64 歳	ワンストップ・ソリューションとして、できること、できないことを明確にして地域住民とフィードバックする必要がある。理念がいくら立派でも実践と結果が伴わなければ、税金の無駄遣いになることをしっかりと認識していただきたい。
10	60～64 歳	昔の“羽”社会では実現されていたと思いますが、多くの“良い点”といくつかの“問題点”があったと思います。現代社会で失われた原因を分析して対策する必要があると思います。

3. 地域住民とのつながり（0件）

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組み（2件）

中原区

	年代	内容
1	65～69 歳	より具体的で実行しやすい（取組やすい）システムに。
2	70～74 歳	日々の具体的な活動実態、内容について御教授いただければと思う。

5. 今自分ができないことがない（2件）

中原区

	年代	内容
1	40～44 歳	フルタイムで夫婦で働き、3人の子どもを育てている為、地域活動になかなか時間をさけない状況です。
2	60～64 歳	現役で仕事をしているため、未だ、ピンと来ていません。近い将来のことと、受けとめてなるべく今後は気に掛けるようにしたいと思います。参考にならないことを承知で書いております。関係者の方々には、頑張ってくださいと思います。

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案（6件）

中原区

	年代	内容
1	35～39 歳	高齢社会を支える人達の土台作りの方が大切だと思います。
2	45～49 歳	支援を必要とする前から地域活動をしていると顔見知りができ、いざという時助け合えると思う。特に現役世代が参加しやすいイベントやボランティア活動があると良い。
3	50～54 歳	それぞれがやれる（やらないといけない）範囲を低めに決める。これが高すぎて負担になるようだと私は（みんなも）やらないと思う。みんなが少しずつ（やれる、やりたい範囲で）やるのがいいと思う。

	年代	内容
4	65～69 歳	民生委員として地域包括支援センターの方と連携をとり、活動する機会がありました。忙しい中とてもよくやっていただきました。ただ、今の状況では地域包括支援センターの人材が少ないのではないかと感じました。個人の仕事量が多いのではないのでしょうか？
5	70～74 歳	コロナ前は夏祭りなどで、普段お付きあいしていない近所の方とお話しする機会がありましたが、現在は近所の方とのコミュニケーションの機会がない。夏祭りなどイベントの機会を作る必要があるのではないか。
6	75 歳以上	障害者に対し、スポーツやゲーム等楽しく社会参加の推進。町内会等に協力（ボランティア）を求める仕組みの検討。

8. 取組への期待について（3件）

中原区

	年代	内容
1	50～54 歳	互助の心は大切だと思います。超高齢化社会を見すえた良い取組だと思います。
2	70～74 歳	これから関心を持ってみたい。
3	75 歳以上	今は健康ですが 70 才後半にもなると年々衰えていくのが分かります。これからはこういうことにも関心を持って行きたいと思います。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（0件）

11. 地域防犯・防災について（1件）

中原区

	年代	内容
1	45～49 歳	地域にすむ障がい者や病気について、警察の人にわかっておいてもらいたい！バスや電車ののりかたがわからない時にやさしくおしえてほしい（どならないで！）。

12. サービスや手続きについて（0件）

13. 医療について（0件）

14. その他（6件）

中原区

	年代	内容
1	20～24 歳	知らない。
2	30～34 歳	現在は交流のある団体などを通し、車いすユーザーとしての活動をたまにしているが、川崎市に対しても地域住民として活動し、還元できることがあればしたいと思う。
3	60～64 歳	良くわかりません。
4	65～69 歳	このアンケートをきっかけにもっと関心をもつ必要がある（自分のこととして）と思いました。
5	70～74 歳	読むのも面倒くさい。若い人へのアンケート依頼して下さい。
6	75 歳以上	地元の人、古い移住者、新しい移住者の集合体である地域に於いては町内会などの運営は非常に難しい。人生は勤めをやめてから東京（杉並区）に本家があって謡曲の月例会に参加し、自分でもリーダーとなって 97 才まで活動して来ましたが”人の縁”に恵まれたと感じています。

(4) 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

『川崎市地域福祉計画』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	10
2. 市への意見・要望について	9
3. 地域のつながりについて	2
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	2
5. 今自分がやれることはない	0
6. 健康について	1
7. 取組の提案について	10
8. 取組への期待について	3
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	3
11. 地域防犯・防災について	3
12. サービスや手続きについて	1
13. 医療について	0
14. その他	9

1. 取組の周知について（10件）

中原区

	年代	内容
1	30～34 歳	自分のような転勤で一時的に居住している世帯にも参加しやすい取組や情報周知が必要だと思う。
2	35～39 歳	地域のために行うことに対して、子育て世帯をターゲットにするなら、保育園や幼稚園、小学校などから情報が知れるようにしてもらえると知ることができると思います。住んでいるところに掲示板や回覧板などもなく、区役所などにも用事がないと行かないので、普段の生活では地域で行われていることに対して知ることができません。まず、情報を知る機会がないと、ないものと同じかと思います。
3	40～44 歳	広報紙の配布以外での広報についての検討をお願いします。
4	40～44 歳	取組内容をもっと広く教えてほしい。
5	50～54 歳	本アンケートを通して始めて知ることや気付くことが多数あり、学びのよい機会となりました。ありがとうございました。地域のこと福祉のことを自分自身に関わることとして、関心を持って情報収集したくなりました。私の家（マンション）では、一時期（数年）市の広報誌が一切入らなくなりました（今は入る）。町内会に加入した世帯のみ配布していたようです。広報誌には重要な情報が掲載されています。すべての市民が情報を得られるようお願いしたいです。
6	50～54 歳	聞いたことなかった。

	年代	内容
7	55～59 歳	私自身なにも知りません。他にも同様の人が居る筈です。半強制でも構わないので、説明会等を開いて参加するようにした方が良いと思います。関心がないでは済まされないと思います。
8	65～69 歳	策定されたら、明確にわかりやすく広報してほしい。
9	70～74 歳	このような計画がある事を知らない人も沢山いると思います。もっと皆に知らせて下さい。私が今まで気が付かなかっただけかもしれません。
10	70～74 歳	健康であり続ける限り地域福祉と関係する機会が乏しいため、日頃より、計画内容、進捗について御説明いただく機会があれば有難い。

2. 市への意見・要望について（9件）

中原区

	年代	内容
1	25～29 歳	子育て支援の拡充。
2	30～34 歳	現在、2歳の子どもが保育園でお世話になっていますが、発熱後24時間登園できないというルールがあるため、下熱して元気な状態でも登園できないため、共働き家族には辛い状況です。コロナによる制限が緩和している中、再考頂きたい事項のひとつです。
3	30～34 歳	政令指定都市として、財源の分配を見直し、地球にどこまで必要なのかを考えてほしい。若い世代からすると「地域と協力」や「福祉」についてより、今の自分たちの生活について財源を使ってほしいと考えてしまう。
4	40～44 歳	国があまりにもひどい政策をして国民から税金をむしり取っている。川崎市はどくどくに今すぐ給付金を出すべき。もちろん川崎市の全市民にそれが福祉につながり市民の心のゆとりになり人にやさしくなれるのです。まずは市民に余裕の心のために給付金を10万円くばってください。話はそれから始まると思います。
5	40～44 歳	高齢化、財政のひっばくにそなえて、できるかぎり、無駄のないお金の有効活用をお願いします。
6	45～49 歳	今回のようなアンケートをwebアンケートにして、幅広く情報を収集するともっと有益な情報が集まると思われます。
7	45～49 歳	直接的ではないが、本アンケートも含めてDX化を推進すべきと考えます。このアンケートも手で集計してシステムに入力するという非効率的な作業が発生していると思います。行政も含めてDX化されていかないと地域福祉も向上していくのは難しいと思います。
8	50～54 歳	関係ありませんが、関係部署に伝えて下さい。土手の所でサッカーや野球をしている団体に親や子の自転車を橋ゲタのわきに止めている団体がいます。自分たちの球技している場所や観覧している場所におかずとてもじゃまです。橋ゲタの壁を使って1人で練習している子どもさんたちが練習できません。雨よけならともかく雨のない日に並んでおり、とても不愉快です。グラウンドを貸す際に必ず注意できないのでしょうか？駐輪場のようになっています。

	年代	内容
9	60～64 歳	何かと行ったら、結果を分析して“良かった点”も“悪かった点”も同列にならべて、問題点と対策（PDCA）を何回転もやって見ることを民間では行っている（ような会社は改革が進んでいる）。最近、近所の公園が雨がふるとほぼ全体が水たまりになって、そこを通る人が困っているのので“公園管理事務所”に対策を申請したら、砂を入れてくれたのですが、次の雨ではやはり水びたしでした。それ以降何もかわらない。それでは金のむだです。“うちとは関係がない話だ”と思うようなら、こんなアンケートも無駄です。

3. 地域のつながりについて（2件）

中原区

	年代	内容
1	60～64 歳	市の広報を回覧で見ることにはあるのですが、固苦しすぎることで、決まりきった文面、レイアウトのせいでほとんど見る気になりません。若い人達は更に見ないと思います。もっとデザインを変えて目を引きやすい紙面になることを期待します。「町内会」の存在意義があやうくなっていて、何の役に立っているのか、会に参加していない人々にとっては理解できないものになっています。名称は古くさいし。町内会はなくして、新しいつながりを作っていく方向にいくといいのかなと思います。「町内会」の存在意義があやうくなっていて、何の役に立っているのか、会に参加していない人々にとっては理解できないものになっています。
2	65～69 歳	ボランティア活動や地域の交流が前提になっているように書面から感じとれます。しかし、防災、防犯、介護などで目の前に困っている人がいれば手を差し伸べるのが人間ではないでしょうか？ボランティアや地域活動などの小さな取組にこだわらず、もっと大きなくくり方が必要なのではないでしょうか？川崎の住人は、善人だらけです。いざとなったら役に立つと思います。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（2件）

中原区

	年代	内容
1	25～29 歳	専業主婦が減り、地域のボランティアというのは若い世代では集まりにくいと思う。暇を持って余してる老人に、地域交流と称して、なにか役に立つこと、そしてもらえれば、一石二鳥では。
2	25～29 歳	障害者や高齢者が参加したり、頼ったりしやすいコミュニティを作っていたらよいと思う。ボランティアや地域行事への参加など。タクシーチケットやバスの路線の工夫などもそれらの人が地域に出やすいきっかけになるかもしれません。（そもそもきちんと分かっていないのいろいろな書いて申し訳ないです。私自身もこれから知っていこうと思いました。お願いします。）ありがとうございます。

5. 今自分がやれることはない（0件）

6. 健康について（1件）

中原区

	年代	内容
1	55～59 歳	障害者でも参加出来るスポーツ施設など、もう少しあると助かります。

7. 取組の提案について（10件）

中原区

	年代	内容
1	30～34 歳	連携はとても大切で支援機関や様々な交流には力を入れてほしいと思う。一方で私の場合、障害者だがサービス知識の不足や、ヘルパーの事業所なども（回数が多いのも困るが）合わなかったら変えていいことなどを分かっていない人も多いと思う。高齢者などの分野でも同様の可能性があると考えられる。最近、「就業中の支援」について認可する自治体があった。川崎市でも検討や通知などを進めてほしい。また私も何かあれば障害当事者として協力していきたいと思った。市のホームページを見ながら回答しました。
2	40～44 歳	3人の子どもを育てています。来年から医療費の所得制限なくなるのは非常にありがたいです。三女は保育料満額で支払っており、児童手当もなくなりました。都内であれば保育料3人目は無料で年間100万円以上川崎に住むことでかかっています。所得制限があることで子どもを産んでも自治体からは応援されていないのでは…という気持ちになります。親の所得に関係なく子ども達へのサポートをお願いします。
3	40～44 歳	問11の内容ではありませんが、アンケートは電子化して下さい。(併用) 回答に30分近くかかるようでは、回答率は下がるし、きちんとした調査につながらないかと。また、回答率をあげる為にも、多少の謝礼（地域で使えるクーポン等）の仕組みを入れた方がよいと思います。
4	45～49 歳	自分の生活で手一杯な状況だと他まで手が回らないのが現状です。今の経済下で余裕のある人がどれ程いるのか疑問です。税金をそちらにまわし公務員的な人を募った方がより良いと感じます。西欧の国でそのような国があると聞きます。ご参考までに。
5	50～54 歳	市民、区民の福祉のためにご尽力いただき、ありがとうございます。最近の社会では、高齢者と若者の世代間のギャップが大きいと感じます。日本語の知識有無から生まれる言葉への理解度の差があると思います。一部の若者は漢字語句などのボキャブラリー不足、高齢者は、カタカナの新語（和製英語など）の理解不足で、双方の認識にズレがあるなど体感しています。これからの福祉は全世代で協力することが大切だと考えますので、世代間の言葉のギャップを埋める取組も必要ではないでしょうか。
6	50～54 歳	高齢者の参加を期待します。若者＝生産人口だけでは担いきれない。
7	60～64 歳	問45にも記述した通り、名前だけでなく、実践が有効であり、地域の福祉に資するものであるよう強く要望する。そのためには、情報をいかに利用者に遅延なく届けるか。努力する必要がある。福祉を本当に必要とする人は行政の目が届かないところで、ひっそりと暮らしていることを胸に刻んで、認識していただきたい。そのためにしっかりと情報フィードバックを分かりやすい形で行うようにされたい。

	年代	内容
8	60～64 歳	身体や知的障害者が自立できる支援（職場、住居、給与等の支援）が地域毎に充実している事を望みます。
9	65～69 歳	ウェブサイトを見たが提案などをする機能がないように見えた。この点を充実してほしい。
10	75 歳以上	ひとり親のお子さんの為に、町内で食事を提供出来る場所があるといいですね！！

8. 取組への期待について（3件）

中原区

	年代	内容
1	55～59 歳	これから益々少子高齢化社会が進み、災害の備えも新たなニーズに合わせなくてはならない。地域における福祉の役割の重要性は今回のアンケートでも気づかされました。こうした取組を今後もよろしく願いいたします。
2	75 歳以上	現役時代は”家⇄会社”の生活で自分の家の近所すら歩いたことがない程、関心がなかったが改めて保健・福祉のセンターがあること知りました。[問45]に書きましたが定年退職後の”生きがい”を求めている時、先輩から誘われて入った趣味謡曲の会が自分の考えと会の空気が合致して97才まで”生きがい”を感じています。”センター”の建物と管理者だけでは得られないと感じています。又100才になって支援を受ける身になって”ケアマネジャー”（有能な！！）との縁が如何に大事かを感じています。
3	75 歳以上	現在の状態で良いと考えます。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（3件）

中原区

	年代	内容
1	45～49 歳	バスのフリーパスはとっても助かっています。電車の割引のシステムをもっと安く、使い勝手のよいものにしてほしい。障がい者が相談先とする人の知識と技術をふやしてほしい。障害者が働くときの相談したときに希望がほしい。もう少し仕事の相談をしっかりと、ていねいに、やってほしい！！
2	45～49 歳	親が高齢になり引き取らなければいけなくなったらどうしたらよいのかわからない。利用できるサービスやどんな事を助けてもらえるのかそもそもどこに聞きに行けばよいのか総合的な窓口が欲しい。本当に困っている人程利用しづらい社会だと思う（利用できるまでの手続きの複雑さと利用すべき人の能力との差がありすぎて）。
3	45～49 歳	未来が不安である。多分、独りで死ぬと思うので、死んだ時の事や自分の体が溶けた後の処理をどうしたら良いかは何処に相談すれば良いのだろうか。

1 1. 地域防犯・防災について（3件）

中原区

	年代	内容
1	35～39 歳	質問とは異なる回答ですが前述のとおりブレーメン通り商店街の自転車のマナーは早急に解決すべきです。有料駐輪場の設置。側道に児童の作品（絵画）を設置（大阪の事例）。自転車専用道の設置（商店街通りから外して設置）。
2	50～54 歳	府中街道や中原街道には、せまくて歩道を歩けない所がある。せまいだけでなく、高い所や低い所が連続して歩きにくい所もあります。福祉活動も大切ですが、こんな危ない道を歩かせるのであれば、老人は外に出たくないのでは。ベビーカーさえ押して歩けません。まずこういった所も整備してほしいです。
3	70～74 歳	防災計画などで具体的に避難訓練等を実施する必要がある。

1 2. サービスや手続きについて（1件）

中原区

	年代	内容
1	60～64 歳	要は、健康に長生きして、保険をなるべく使わない様にする事なの？

1 3. 医療について（0件）

1 4. その他（9件）

中原区

	年代	内容
1	25～29 歳	今回のアンケートを元に初めて知ることが多かったです。今後学んでいきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。
2	45～49 歳	とても閉鎖的なイメージ。
3	45～49 歳	長く住んでいますが、日々、仕事や毎日の生活で忙しく、知らない事ばかりでした。現在の課題はもちろん、将来の自分たちの為にも、もう少し地域福祉に興味をもっていこうと思いました。
4	50～54 歳	両親が遠方において、まずそちらがどうなのかが気になっており、川崎のことにまで頭がまわりません。自分が年老いた時に今のところに暮らしているのかもわからないですし。
5	50～54 歳	私は関わっていませんが、これは大切な事だと思うので、地域全体で考えていかないといけないと思いました。
6	50～54 歳	川崎市にもいろいろな家庭や事情がある人がいる中で行政の方々が頑張っている事がこのアンケートで知る事ができた気がします。いつもありがとうございます。
7	60～64 歳	川崎市が調査するというので協力したが、問合せ 46 問は多すぎて、時間がかかった。もう少し、コンパクトな調査が出来なかったのか？疑問です。
8	65～69 歳	このアンケートをきっかけにもっと関心をもつ必要がある（自分のこととして）と思いました。
9	75 歳以上	福祉の話ではないのですが、「ごみ」の問題でグループの中にマンションが 2 棟あって一緒の収集になっており出し方が乱雑で非常に困っています。

資料

アンケート調査票

地域の生活課題に関する調査

みなさまには、日頃から川崎市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。現在、本市では『第6期川崎市地域福祉計画』の見直しに向け、市民や団体活動を行っている方々の（意識）調査を実施しております。

この（意識）調査は、『第6期川崎市地域福祉計画』の見直しに関わる調査の一つとして、無作為に選ばせていただきました市内在住の18歳以上の方を対象に、地域における生活課題などについての意識やご意見、ご要望をおたずねするものです。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年11月 川崎市長 福田 紀彦

【記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、最初から順番にお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、○をつける選択肢の番号を「○は1つだけ」「あてはまるものすべてに○」などと指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合には、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
4. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（→）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。
5. ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月16日（金）**までにポストに投函してください。

※外国人の方で日本語を読むことが困難な方におかれましては、ルビ付きの調査票をご準備しておりますので、必要な方はご連絡ください。また、川崎市国際交流センターで相談をお受けしておりますので、お気軽にご相談ください。

【調査結果の公表】

この調査の結果は、地域福祉実態調査概況のうち「地域の生活課題に関する調査概況」として、川崎市ホームページ（<http://www.city.kawasaki.jp/>）に掲載します。

本調査について、ご不明な点・ご質問等がございましたら、お問い合わせください。

■問い合わせ先

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域福祉担当

電話番号：044-200-2626（直通）

FAX：044-200-3926

☎210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp

問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|----------|----------|---------------|
| 1. 祖父母 | 2. 父 | 3. 母 |
| 4. 配偶者 | 5. 兄弟姉妹 | 6. 子 |
| 7. 孫 | 8. その他親族 | 9. いない（一人暮らし） |
| 10. その他（ | | ） |

問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|---|
| 1. 同居している65歳以上の方がいる |
| 2. 同居している要介護認定を受けている方がいる |
| 3. 同居している障害者手帳（身体・療育・精神保健福祉）の交付を受けている方がいる |
| 4. 同居している小学校就学前の子どもがいる |
| 5. 同居している小学生の子どもがいる |
| 6. 同居している中学生以上の18歳未満の子どもがいる |
| 7. 家に引きこもりがちな方がいる |
| 8. いずれにも該当する家族がいない |

問8-1 同居していないご家族を含め、ご家族のうち、以下の項目に該当する方は、いらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|---|
| 1. 同居していない65歳以上の方がいる |
| 2. 同居していない要介護認定を受けている方がいる |
| 3. 同居していない障害者手帳（身体・療育・精神保健福祉）の交付を受けている方がいる |
| 4. 上記1～3以外で、同居していない家族の中に気に懸かる方がいる
（ ） |
| 5. いずれにも該当する家族がいない |

【「川崎市地域福祉計画」についておたずねします】

川崎市では、川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築をめざして、令和3年3月に「市民一人ひとりが共に支え合い安心して暮らせるふるさとづくり」を基本理念とする『第6期川崎市地域福祉計画』及び7つの区で『区地域福祉計画』を策定しました。

地域福祉計画は、それぞれの生活の拠点である地域において、共に生きるまちづくりの精神を発揮して、市民と行政がともに地域社会の生活課題の解決に取り組むことにより、誰もが安心していきいきと健やかに暮らせるような地域社会をつくることを目的としています。

また、“地域福祉”とは、こうした地域社会をつくりあげていくための市民や行政の取組と言えます。

問 12 あなたは、川崎市に『第6期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(○は1つだけ)

1. 市の計画、区の計画の両方を知っている
2. 区の計画は知らないが、市の計画は知っている
3. 市の計画は知らないが、区の計画は知っている
4. 市の計画も区の計画も知らない ⇒問 13 へ

問 12 で「1～3」と答えた方にお聞きします。

問 12-1 計画は何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市政だより
2. 市や区のホームページ
3. チラシ・パンフレット
4. 市や区の計画での取り組みに参加した
5. 団体等の会合
6. 交流会・ワークショップ
7. シンポジウム
8. 講演・講習会
9. 口コミ(友人・知人や近隣の方からの)
10. その他()

【あなたがお住まいの地域についておたずねします】

問 13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(○は1つだけ)

1. 両隣
2. 向こう三軒両隣程度
3. 同じ集合住宅(アパート、マンションなど)
4. 歩いて5分(およそ100m)以内程度
5. 歩いて10分(およそ200m)以内程度
6. その他()

問 14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 家族のように親しくつきあっている | |
| 2. 電話、メールなども含めて、親しく話をする | |
| 3. ときどき話をする程度 | 4. あいさつをする程度 |
| 5. ほとんどつきあいが無い | 6. その他 () |

問 15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(○は1つだけ)

- | |
|---|
| 1. 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ |
| 2. いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい |
| 3. 困った時は当然助け合うべきだが、日頃の交流は面倒なのであまりしたくない |
| 4. 地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ |
| 5. 地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えばよい |
| 6. 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日頃の交流は必要ない |
| 7. その他 () |

問 16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ)

- | |
|---------------------------|
| 1. 加入している ⇒ 問 17 へ |
| 2. 加入していたが、退会した・加入したことはない |

問 16-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 行事に参加できない | 2. きっかけが無い |
| 3. 特に不便を感じない・必要性を感じない | |
| 4. 集合住宅の管理組合に加入している | |
| 5. 仕事、子育て、介護等が忙しくて時間がない | |
| 6. 地域のつきあいがわずらわしい | 7. 会費に見合うメリットがない |
| 8. 加入の仕方がわからない | 9. 面倒だから |
| 10. 関心がない | 11. その他 () |

問 17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。
(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 隣近所程度 | 2. 町内会・自治会程度 |
| 3. 小学校区程度 | 4. 中学校区程度 |
| 5. お住まいの区内程度 | 6. 川崎市内程度 |
| 7. それ以上 | 8. その他 () |

問 18 あなたは、その「地域」での生活において、いま何が問題だと感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 健康づくりに関する問題 (ストレス、食育、生活習慣病など) |
| 2. 高齢者に関する問題 (介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど) |
| 3. 障害児・者に関する問題 (地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など) |
| 4. 子どもに関する問題 (育児不安、児童虐待、ヤングケアラー、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど) |
| 5. 地域防犯・防災に関する問題 (交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など) |
| 6. 地域のつながりに関する問題 (近所づきあい、新型コロナウイルスなど新興感染症による対面での交流、人と人との関係が希薄など) |
| 7. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題 |
| 8. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題 |
| 9. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない (足りない) という問題 |
| 10. 地域での活動・資源に関する問題 (買い物、移動、食事など) |
| 11. その他 () |
| 12. 特に問題だと感じていることはない ⇒問 19 へ |

問 18-1 その問題は、具体的にどのようなことですか。身近な事例などがあれば教えてください。

問 19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない |
| 2. 介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない |
| 3. 経済的に生活できるか不安である |
| 4. 病気になったときに頼れる人が身近にいない |

5. 子育てがうまくできるか不安である
6. その他（

）

問 20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 身近でいつでも相談できるところがあること
2. 保健や福祉のサービスの利用料が低額であること
3. 保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること
4. 緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること
5. 利用できる保健や福祉のサービスの種類がたくさんあること
6. 保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること
7. 保健や福祉のサービスの質を評価した情報があること
8. その他（
9. 特に何も必要だとは思わない

）

問 21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 同居している家族
2. 友人・知人
3. 離れて暮らしている家族
4. 区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）の職員
5. かかりつけの医療機関
6. 近所の人
7. 福祉施設やサービス提供事業所の職員
8. 地域包括支援センター等専門相談機関
9. 民生委員児童委員
10. 社会福祉協議会
11. 民間の相談機関（電話相談を含む）
12. インターネット
13. その他（
14. 相談する人はいるが、誰にも相談しない
15. 相談する人がいない

）

問 22 あなたには、友人と呼べる人がいますか。（○は1つだけ）

1. いる

2. いない

⇒問 23 へ

問 22 で「1. いる」と答えた方にお聞きします。

問 22-1 何人くらいいますか。

人

問 22-2 その中で、実際に会ったことのないインターネット上の友人はいますか。

(○は1つだけ)

1. いる

2. いない

問 23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(○は3つまで)

1. 親族

2. 友人・知人

3. 近所の人

4. 民生委員児童委員

5. 社会福祉協議会

6. 地域の活動団体

7. NPO等の民間団体

8. 区役所・市役所

9. 地域の医療機関

10. ケアマネジャーやホームヘルパー等

11. その他 ()

12. 誰もいない

13. 頼みたくない

問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(○は3つまで)

1. 安否確認の見守り・声かけ

2. 趣味など世間話の相手

3. 子育て・介護などの相談相手

4. 炊事・洗濯・掃除などの家事

5. 草むしり、冷蔵庫内の整理

6. ちょっとした買い物

7. 子どもの預かり

8. 外出の付き添い

9. 災害時の手助け

10. ごみ出し・雨戸の開け閉め

11. 電池交換や簡単な大工仕事

12. その他 ()

13. 特にない

問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(○は3つまで)

1. 安否確認の見守り・声かけ

2. 趣味など世間話の相手

3. 子育て・介護などの相談相手

4. 炊事・洗濯・掃除などの家事

5. 草むしり、冷蔵庫内の整理

6. ちょっとした買い物

7. 子どもの預かり

8. 外出の付き添い

9. 災害時の手助け

10. ごみ出し・雨戸の開け閉め

11. 電池交換や簡単な大工仕事

12. その他 ()

13. 特にない

問 26 現在、あなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要になった場合に、病院や介護施設などに入院・入居せずに在宅で療養することは可能ですか。（○は1つだけ）

1. 現在、在宅で療養している
2. 在宅で療養したいし、おそらく可能である
3. 在宅で療養したいが、おそらく不可能である
4. おそらく在宅で療養することは可能だがしたくない
5. おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない
6. その他（)

問 27 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。（○は1つだけ）

1. 意思表示の書面は必要であり、すでに作成している
2. 意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない
3. 意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている
4. 意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある
5. 意思表示の書面は必要ないし、家族で話し合う必要もない
6. すべて家族にまかせるので必要ない
7. すべて医療者や病院にまかせるので必要ない
8. その他（)

問 28 社会的不安や孤独・孤立の問題に対応していくために、地域での見守りの取組として、有効だと思う取組はありますか。（○は5つまで）

1. 地域住民による見守り訪問、声かけ運動、友愛訪問などの取組
2. 電気、ガス、水道の検針や新聞や牛乳配達を活用した見守りの取組
3. 民生委員児童委員による見守りの取組
4. ごみ収集（ごみ出しが困難な高齢者等への支援や声かけ）による確認
5. 定期的な電話や傾聴等の話し相手
6. 会食会、コミュニティ・カフェ、サロンなどを催し、地域交流を深める取組
7. 地域包括支援センター等による生活実態の把握
8. 弁当の配食時に安否確認する取組
9. 児童の登下校時の見守りの取組
10. 身近な地域で開催される運動や体操などの取組
11. その他（)
12. 特にない
13. わからない

問 29 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

1. すでに制度を利用している
2. おおむね制度について知っている
3. 言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない
4. 知らない ⇒問30へ

問 26 で「1～3」と答えた方にお聞きします。

問 29-1 制度の相談窓口となっている機関で知っているものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
2. あんしんセンター(成年後見支援センター)
3. 地域包括支援センター
4. 障害者相談支援センター
5. その他()

【地域活動やボランティア活動についておたずねします】

問 30 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する活動
2. 高齢者に関する活動
3. 障害児・者に関する活動
4. 子育てに関する活動
5. 医療に関する活動
6. 町内会・自治会に関する活動
7. 社会福祉協議会に関する活動
8. お祭りやイベントに関する活動
9. 地域安全に関する活動
10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動
11. 文化・芸術に関する活動
12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動
13. 自分のスキル(能力や技能)を活かした活動
14. オンラインでの活動
15. その他()
16. 今は参加していないが条件が整えば参加したい ⇒問30-2から問30-5へ
17. 参加したことがない ⇒問30-6へ

「1」～「15」に○をつけた方は、問30-1へ進む

問 30-1 活動に参加した動機やきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 人の役に立ちたいから
2. 自分たちのために必要な活動だから
3. 家族・友人・知人から誘われたから
4. 学校の授業などで機会があったから
5. 困っている人や団体から頼まれたから
6. 余暇を有効に活用したいから
7. 趣味や特技を活かしたいから
8. 楽しそうだから
9. つきあいのため、やむを得ず
10. その他 ()
11. なんとなく

問 30-2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する活動
2. 高齢者に関する活動
3. 障害児・者に関する活動
4. 子育てに関する活動
5. 医療に関する活動
6. 町内会・自治会に関する活動
7. 社会福祉協議会に関する活動
8. お祭りやイベントに関する活動
9. 地域安全に関する活動
10. 環境美化(ごみ拾いなどを含む)に関する活動
11. 文化・芸術に関する活動
12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動
13. 自分のスキル(能力や技能)を活かした活動
14. オンラインでも参加可能な活動
15. その他 ()
16. 具体的にはわからない

問 30-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。

問 30-4 参加される場合、活動可能な日数はどのくらいですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 週3回以上 | 2. 週1~2回 | 3. 月2~3回 |
| 4. 月1回 | 5. 月1回未満 | |

問 30-5 オンラインでの活動も含めて、参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 平日日中（10~17時）2時間以内 | 2. 平日日中（10~17時）4時間以内 |
| 3. 平日日中（10~17時）6時間以内 | 4. 平日夜間（17~20時） |
| 5. 休日日中（10~17時）2時間以内 | 6. 休日日中（10~17時）4時間以内 |
| 7. 休日日中（10~17時）6時間以内 | 8. 休日夜間（17~20時） |

問 30-6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--------------------------|
| 1. 仕事や家事が忙しく時間がない |
| 2. きっかけがつかめない |
| 3. 身近に活動グループや仲間がない（知らない） |
| 4. 健康に自信がない |
| 5. 家族や職場の理解が得られない |
| 6. 興味を持てる活動がない |
| 7. 育児や介護を必要とする家族がいる |
| 8. 一度は始めると拘束されてしまう |
| 9. 行政や事業者が行えばよい |
| 10. 人と接するのが苦手 |
| 11. 地域活動やボランティア活動はしたくない |
| 12. その他（) |
| 13. 特に理由はない |

問 30-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|----------------------------------|
| 1. 活動する時間ができれば |
| 2. オンライン等を活用した活動であれば |
| 3. きっかけがあれば |
| 4. 身近に活動グループや仲間がいれば |
| 5. 体力や健康に自信があれば |
| 6. 家族や職場の理解が得られれば |
| 7. 興味を持てる活動があれば |
| 8. ボランティア活動に参加していることが評価されるようになれば |
| 9. その他（) |
| 10. 地域活動やボランティア活動はしたくない |

【保健・福祉に関することについておたずねします】

問 31 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。（○はそれぞれ1つだけ）

	1 知っている	2 知らない
ア. 社会福祉協議会	1	2
イ. 民生委員児童委員	1	2
ウ. 区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）	1	2
エ. 地域包括支援センター	1	2
オ. あんしんセンター（成年後見支援センター）	1	2
カ. 老人クラブ	1	2
キ. いきいきセンター（老人福祉センター）	1	2
ク. いこいの家（老人いこいの家）	1	2
ケ. 障害者相談支援センター	1	2
コ. 地域療育センター	1	2
サ. 地域リハビリテーションセンター	1	2
シ. 聴覚障害者情報文化センター	1	2
ス. 視覚障害者情報文化センター	1	2
セ. 児童相談所	1	2
ソ. 地域子育て支援センター	1	2
タ. こども文化センター	1	2
チ. 福祉パル（区社会福祉協議会）	1	2
ツ. 総合福祉センター（エポックなかはら）	1	2

【防災に対する意識と備えについておたずねします】

問 35 避難や救助が必要となる災害に備えて、あなたが防災に関して取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 防災グッズの準備、食料や水の備蓄など
2. 携帯トイレ（簡易トイレ）を備えておくこと
3. 停電時の対策（懐中電灯、ランタン、電池の用意・通電火災への対策等）
4. 近くの学校や公園などの避難場所の確認
5. 緊急時における家族との連絡方法の確認
6. 学校や勤め先からの帰宅ルートの確認
7. 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む
8. 警戒レベル（5段階）などの防災情報の意味を知っておくこと
9. その他（）
10. 特にない

問 36 大規模な災害が発生すると、地域住民同士で助け合いが重要ですが、普段からどのような活動をする必要があると考えますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 近所の人と挨拶をする程度の関係をつくっておくこと
2. 避難するのに支援が必要な人を把握しておくこと
3. 住民同士で家族構成・要介護度などについてある程度知っておくこと
4. 地域で用意している救助資材の内容や管理場所を知っておくこと
5. ハザードマップなどで地域の危険な場所を知っておくこと
6. 地域の避難所を知っておくこと
7. 地域で主体的に防災につながる活動を行うこと
8. 防災訓練に参加すること
9. ボランティア活動への参加
10. わからない
11. その他（）

問 37 防災に関する次の取組のうち、ご存知のものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 川崎市地域防災計画 | 2. 各区地域防災計画 |
| 3. 地区ごとに作成している防災計画 | 4. 災害時要援護者避難制度 |
| 5. 川崎市防災マップ | 6. 土砂災害ハザードマップ |
| 7. 福祉避難所 | 8. 防災啓発冊子「備える。かわさき」 |
| 9. 川崎市防災ポータルサイト | 10. 自主防災組織 |
| 11. マイタイムライン | 12. 川崎市災害ボランティアセンター |
| 13. すべて知らない | |

【今後の地域福祉の推進についておたずねします】

問 41 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 住民同士が自ら地域課題の把握やその解決方法を探るための話し合いの機会をつくること
2. 地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと
3. 地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること
4. 地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること
5. 家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと
6. その他（ ）
7. 特に取り組むべきことはない

問 42 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握
2. 行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり
3. ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成
4. 福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示
5. サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実
6. ワークショップや地域交流会などによる地域の課題等を共有する場・機会の提供
7. 地域の自主的活動と行政サービスの連携強化
8. その他（ ）

問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座
2. ワークショップやKJ法※など会議の方法や進め方が学べる講座
3. 地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座
4. アンケート調査や聞き取り調査などさまざまな調査技術が学べる講座
5. 支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座
6. 活動の中心となるリーダーとして身につけるべきことが学べる講座
7. 障害者が困っていることを疑似体験を通して学べる講座
8. 先進的な取り組み事例が学べる講座
9. その他（ ）
10. 特にない

※KJ法：データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて図解し、情報や課題を整理していく方法

問 44 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。（○は1つだけ）

※「地域包括ケアシステム」とは…

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組と地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。

1. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している⇒問45へ
2. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない⇒問45へ
3. 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない
4. 地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない
5. 地域包括ケアシステムを聞いたことがない

「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」と答えた方にお聞きします。

問 44-1 地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。このような行動を行っていますか。（○は1つだけ）

1. 定期的に行っている（具体的に： _____）
2. たまに行っている（具体的に： _____）
3. 行っていないが、機会があれば行いたい
4. 行っていないし、関心もない

問 45 「地域包括ケアシステム」の取組等について、御意見があればお書きください。

問 46 最後に、『川崎市地域福祉計画』または『区地域福祉計画』に対するご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

第6回川崎市地域福祉実態調査 結果概要（中原区版）

令和5年3月発行

発行 川崎市

編集 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL 044-200-2626（直通） FAX 044-200-3926

E-mail 40keasui@city.kawasaki.jp
